



日本私立歯科大学協会広報

第82号
令和3年9月

〈巻頭言〉

新型コロナウイルスの教育への影響と歯学教育
後藤滋巳 2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部

・UiTM Dental Students' Scientific Symposium
2021において本学学生が Best International
Award 第3位を受賞 5

・文部科学省「デジタルを活用した大学・
高専教育高度化プラン」実施機関に採択 5

○岩手医科大学歯学部

・令和2年度岩手医科大学卒業式が挙行されました
..... 5

・最終講義が行われました 6

・令和3年度岩手医科大学入学式が挙行されました
..... 6

・盛岡市の新型コロナワクチン接種が
内丸メディカルセンターで開始されました 7

○奥羽大学歯学部

・自衛消防訓練 7

・歯学部新入生オリエンテーション 7

・図書館でミニ展示「破壊された本たち」 7

・大学院特別研修セミナーの開催 8

○明海大学歯学部

・在日中国企業協会と包括連携協定を締結 8

・ホワイトコートセレモニー開催—歯科医師への
モチベーション向上へ— 9

・保健医療学部1期生登院式—医療の道へ
自覚新たに— 9

・保健医療学部口腔保健学科1期生の臨床臨地実習
..... 9

○東京歯科大学

・第126回卒業証書授与式 10

・2021年度東京歯科大学入学式 10

・新千葉歯科医療センター開院 11

・新型コロナワクチン接種 12

○昭和大学歯学部

・根岸宗一郎さんがジョセフ・リスター賞を受賞
—第68回国際歯科研究学会日本部会総会・学術
大会— 13

・頌彦玲子助教がモリタ優秀発表賞を受賞
—第62回国際歯科基礎医学会学術大会— 13

・富士吉田キャンパスに新学生寮が完成 14

・令和3年度歯学部白衣授与式 14

○日本大学歯学部

・令和2年度第1回FD講習会—日本大学歯学部
におけるICT教育— 15

○日本大学松戸歯学部

・同窓会から院内生用個人防護具を
贈呈いただきました 15

・5年次登院式・戴衣式 16

○日本歯科大学生命歯学部

・附属病院 全国最初に接種 16

・本学創立115周年式典 16

・CPF更新(東京) 唯一の細胞培養加工施設 17

○日本歯科大学新潟生命歯学部

・本館と1号館を改修 17

○神奈川歯科大学

・唾液力! Part II—唾液腺マッサージ— 18

・ハブラシコンセイエ誕生! 18

・県警・海保に歯科身元確認指導 19

・AR/VR教育の取り組み 19

目次

○鶴見大学歯学部

・歯学部法医歯学講座勝村聖子准教授が
神奈川県南警察署より感謝状を授与されました 20

・鶴見大学歯学部附属病院功労賞授与式 20

・「小児歯科学雑誌優秀論文賞」受賞について 20

○松本歯科大学

・河北医科大学とのオンライン臨床実習を実施 20

・臨床検査室にPCR検査装置導入
—COVID-19感染対策をさらに高める— 21

・上級生が新入生を歓迎「ウェルカムディナー」で
親睦深める 21

・地域の歯科医療者・高齢者らにワクチン接種
一本学病院と図書会館が接種会場に中核的医療
機関として地域に貢献— 21

○朝日大学歯学部

・創立50周年を迎えて記念植樹 22

・White Coat Ceremony 2021 23

・春の叙勲を受章 23

・歯学部課外セミナーを開講 23

○愛知学院大学歯学部

・令和2年度 第55回歯学部学位記授与式を
挙行いたしました 24

・故長谷川二郎元歯学部長追贈名誉教授授与式が
行われました 24

・歯学部 歯科矯正学講座 源千里先生の研究が
『2021 Wayne G. Watson Award for Biologic or
Experimental Research』を受賞 25

・【楠元キャンパス】新型コロナウイルス
唾液無料PCR検査を実施します 25

○大阪歯科大学

・「ひらかたの未来創造事業」4大学の学生たちが
枚方市長にプレゼンテーション 25

・歯学部4年の鈴田 真裕さんがSCRP日本大会で
上位入賞しました 26

・2020年度 グット・ティーチャー賞の表彰が
行われました 26

・コロンビア大学から川添理事長・学長に感謝状が
贈られました 27

・濱島 淑恵 教授がNHK「クローズアップ現代+」
に生出演しました 27

○福岡歯科大学

・福岡歯科大学長に高橋裕氏を再任 28

・福岡歯科大学が災害時の歯科医療支援活動に
関する協定書を締結 28

・学校法人福岡学園・福岡歯科大学
創立50周年記念講堂 起工式を挙行 28

・「学術研究振興資金」に福岡歯科大学日高教授が
採択 29

〈事業概要〉

○令和2年度協会決算 30

○令和3年度協会事業計画 30

○令和3年度協会収支予算 32

○総会 33

○理事会 35

○委員会 38

○事務局会議 38

○〈叙勲〉 39

○〈付報〉 39

○〈人事異動消息〉 39

○〈協会役員・部会・委員会名簿〉 51

○〈賛助会員企業紹介〉 55

○〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 56

○〈編集後記〉 56

巻頭言

新型コロナウイルスの教育への影響と歯学教育



愛知学院大学歯学部長
後 藤 滋 巳

はじめに

2013年9月7日にブエノスアイレスでのIOC総会で、日本では56年ぶり2回目開催となる第32回東京オリンピック（2020）、パラリンピック（2020）開催が決定され、先日、8月8日に東京オリンピック（2020）が無事終了しました。また、東京パラリンピック（2020）も9月5日には閉会式を迎えました。

東日本大震災による福島第一原発事故の汚染水の問題を抱えながらも開催を認定されたものでしたが、それ以後も、国立競技場の設計変更、整備計画の見直し、大会エンブレム決定に至るまでの混乱、そして東京開催における暑さ対策等、様々な問題を抱えながらも本大会は当初、2020年夏に開催の予定でした。

そこへ、未知なる新型コロナウイルスの襲来です。これは全世界の全ての人たちに多大なる悪影響を与えました。そのために、公式的な行事はもとより私的な行事も含め、日常生活に自粛をする事象がまことに多く、心身共にストレス感が大きく、疲弊しきっている状況でした。このコロナ禍は大会開催の是非についての

議論にまでおよび、1年間、先延ばしての開催に至りました。

そんな大騒動の中でも東京大会に向けて出場、参戦を目指した多くのアスリートの皆さんには精神的かつ肉体的に鍛え上げ、精進され、本年8月を目標にさらに具体的な日程調整や生活環境、リズムの調整を繰り返し、大会に臨まれました。これまでの大きなストレス下を通じた鍛錬の毎日が、彼らに与えた影響は極めて大きかったことと思います。結果、過去にはない好成績で終了しました。心から賛辞を与えられるべきものと思います。

1. 歯学部学生の目指すもの

さて、歯学部学生にとっての目標は歯科医師になることです。歯科医師は歯科医療を通じて国民の健康増進と維持に寄与し、広く社会に貢献することが求められます。そのためには、修業年限である6年間の学部教育を経て国家試験に合格し歯科医師免許を取得する。これが歯学部の学生に課せられる内容です。これを支援するのが我々教員の責務だと思います。この修業年

限（6年間）に学生に求められるのは、歯科治療に関する知識と技術をしっかりと習得することはもちろんのこと、歯科医師としてふさわしい人格、優しさ、思いやりの心、そして強い心を持ち合わせることも必要です。『社会に正しく認知される歯科医師』を目指してぜひ頑張って欲しいものです。ゆえに、次世代の若者の育成を図る上で新型コロナウイルスの影響は甚大です。

2. 新型コロナウイルス禍での歯学教育への影響

昨年2020年初頭から新型コロナウイルスが世界を席巻し始め、4月7日、安倍総理による首都圏を中心とした「緊急事態宣言」が発令され、私どもの大学所在地である愛知県においても「特定警戒都道府県」指定が行われ、外出制限やら3密状態の忌避が推奨され、全ての活動に制限が加えられました。当然、小中学校、高校並びに大学での教育活動にも大きな制限が加えられ、登校禁止、入構禁止措置が指導されました。愛知学院大学歯学部においても3月の卒業式、謝恩会、4月の入学式の式典を行うことができず、恒例となっている新入生のための一泊研修も行えない状態で推移してきました。また、学年ごとの授業科目へのオリエンテーションなど新学期からの予定されている全てのスケジュールが行えない、そしていつ収束するかの見通しも立たない状況でした。

すなわち2020年度当初は

- 1) いつから授業を開始するか？
- 2) これまで当たり前とされた新学期からの授業をどうするか？
- 3) 対面式授業が行えない。どうするか？

これが中心課題でした。

3. 我が校でのコロナ禍での教育方針

そのような中で、愛知学院大学全体の方針として、2020年4月20日からの授業開始が決まり、歯学部もこれに追随しました。そこからカ

リキュラムの再編成と対面式に代わる教育方法、環境整備等を開始することになりました。

Web Campus（大学全体のオンラインシステム）及びAGUD PORTAL SITE（歯学部独自のシステム）を利用し、学習資料の配信、課題の提示、また必要に応じた教材の郵送等を行いつつ、オンライン授業への早急な準備・移行を教職員一丸となって進めました。（教材、学習資料の発送は膨大でした。）

しかし、前述のシステムのアクセス量は十分ではなく、動画配信と課題提出を安定して行うことのできる新たなオンラインシステムとして、Microsoft Teamsが全学的に採用されました。オンラインシステムで講義をするためにはこのシステムに対応するための講義内容の変換、これを短期間に行う必要がありました。準備する教員が皆、新しいシステムに精通しているわけでもなく、オンラインシステムの欠点を承知した上で整備でした。

4. オンラインシステムでの問題点と対応

- 1) オンラインで講義を行うための教員用、学生用教育マニュアル作り、検証作業を経てのシステム体制への移行（年長者には難儀でした）。
- 2) 基礎実習、臨床実習のオンライン化は教育的効果の低下に不安を感じつつも一部オンライン、一部、対面式としたハイブリッド方式を採用。
- 3) 各種試験をどうするか？公平な状況で、正しくオンラインで行えるか。やはり、試験は対面式でないと難しいとの結論でした。
- 4) コロナ禍での学業に関する学生、保護者の心配事は尽きません。在宅学習における学生のケア、保護者の不安、心配にどう対応するか。これには少人数学生に対するテュータ制度の下、ボランティアテュータを担う教員が電話やLINEを通じての学業、生活面に対する細やかなケアで対応。

5. 2021年度の現状

2020年度とほぼ同様な教育活動への制限での開始でしたが、年明け早々は比較的緩やかな制限であるかのような雰囲気でした。そのため、3月の卒業式そして新学期開始当初は4月の入学式の式典も参加人数の制限、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの常用、またイベントの制限を行いつつ挙行できました。

また、歯学部では新入生1年生の行事として例年行っている一泊研修を日帰り研修に切り替えつつも挙行できました。コロナ禍、緊張しながらの新入生にとっては嬉しい貴重な経験だったと思います。昨年2020年度は入学以来一度も登校できなかった1年生のために万全の感染対策の上で7月末に行った学長指示による一日交流会、ここでの新入生がにこやかな顔であったことを振り返りますと、新入生が一堂に顔を合わせるこの催しは、やはり教育上重要なプログラムだと改めて納得したところです。また、これとは別に、学年ごとの授業科目オリエンテーションも、感染対策には十分に配慮した上で行いました。

2021年度当初は、昨年の秋学期に行った対面授業とオンライン授業とのハイブリッド授業にて講義、実習を行うことで開始したのですが、残念ながら5月連休前に一部の学生にコロナ陽性が発出しました。学年を跨いでの学生間での感染が疑われたことから、自宅学習に変更せざるを得ませんでした。連休明け以降は状況を見ながらではありますが（幸いにもクラスターとはなりませんでした）、徐々に授業を再開させて今に至っています。

大騒動であった昨年の経験から今年は比較的スムーズに進んでいるように思いますが、いまだ、コロナ禍であることは変わりなく、さらに変異株は活発化の状況で感染者数はここにきてさらに急増の傾向です。先日は愛知県にも緊急事態宣言が発出されました。とても収束に近づいているとは言い難い状況です。いつになったら平穏な生活環境に戻るのでしょうか。医歯薬

系の大学卒業は一過程でしかなく、大学卒業後に控えている国家試験、歯学部学生にあっては歯科医師国家試験に合格することが最大の目標です。

おわりに

オリンピック・パラリンピックはコロナ禍での開催の是非、コロナ対策の良否を議論されながらも無観客のまま成功裡に終えようとしています。また、コロナ禍とは別に地滑り、土砂崩れ、河川の氾濫による風水害被害など自然災害により各地で甚大な被害が生じました。お亡くなりになられた方もおられます。心からお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様方には1日も早い復興を心から願っております。自然現象に大変な異変が起こっているように感じます。

(2021年9月寄稿)

〈筆者の略歴〉

- 1977年3月 愛知学院大学歯学部卒業
- 1977年4月 愛知学院大学歯学部専科専攻生（1978年3月まで）
- 1978年4月 愛知学院大学歯学部助手（歯科矯正学）（1988年5月まで）
- 1988年6月 愛知学院大学歯学部講師（歯科矯正学）（1994年11月まで）
- 1990年8月21日 日本矯正歯科学会認定医(417号)、指導医(131号)
- 1994年12月 愛知学院大学歯学部助教授（歯科矯正学）（1996年9月）
- 1996年10月 愛知学院大学歯学部教授・大学院歯学研究科教授（歯科矯正学）
- 1999年12月17日 日本顎関節学会認定医(0075号)、指導医(0075号)
- 2008年2月 中間法人日本矯正歯科学会理事長（2008年11月まで）
- 2008年12月 一般社団法人日本矯正歯科学会理事長（2012年11月まで）
- 2011年4月 愛知学院大学歯学部附属病院長（2015年3月まで）
- 2012年12月 公益社団法人日本矯正歯科学会理事長（2014年3月まで）
- 2017年6月 一般社団法人日本口蓋裂学会理事長（2019年5月まで）
- 2019年4月 愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター所長（2020年3月まで）
- 2020年4月 愛知学院大学歯学部長
現在に至る
- 現職 愛知学院大学歯学部 歯科矯正学講座 教授

大学のニュース

■ 北海道医療大学歯学部 ■

UiTM Dental Students' Scientific Symposium 2021において本学学生が Best International Award 第3位を受賞

2021年4月27日(火)・28日(水)にマレーシアで開催された「UiTM Dental Students' Scientific Symposium 2021」のBest International Awardで本学歯学部5年生の発表が第3位に入賞しました。

第11回UiTM Dental Students' Scientific Symposiumは、本学の協定校であるマレーシアのマラ工科大学(UiTM)歯学部が主催しており、今年はオンラインで開催されました。本学からは5年生の呂令凱さん、宮本康佑さん、野口裕季子さんが安彦善裕教授、植原治講師の指導の下に研究発表を準備し、呂さんが代表し、「ALTERATION OF MICROFLORA AND ANTIMICROBIAL PEPTIDES IN THE ORAL CAVITY OF BEE POLLEN FED MICE」と題してシンポジウムで発表しました。

シンポジウムには約5カ国が参加し、50人以上の学生が研究発表を行いました。国際交流推進センターからは、ハサンMDリアサト助教が出席し、呂さんの発表をサポートしました。

北海道医療大学ホームページ（令和3年4月掲載）

DX推進計画を策定しています。

北海道医療大学ホームページ（令和3年3月掲載）

■ 岩手医科大学歯学部 ■

令和2年度岩手医科大学卒業式が挙行されました

3月12日(金)、令和2年度岩手医科大学卒業式が大堀記念講堂において厳かに挙行されました。新型コロナウイルス感染予防のため、出席者を限定し、卒業生は各研究科・学部の代表者、教員は教授のみとしました。参



祖父江学長式辞



小川理事長祝辞



卒業生代表宣誓

文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」実施機関に採択

2021年3月11日(木)、北海道医療大学は文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の取組①「学修者本位の教育の実現」実施機関に採択されました。

本事業は大学・高等専門学校においてデジタル技術を積極的に取り入れ、「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に資するための取組における環境を整備し、ポストコロナ時代の高等教育における教育手法を具体化し、その成果の普及を図ることを目的として行われるもので

本学では、「医療系大学における学生参加型AI開発による学修者本位の教育の実現と普及」をテーマとした

加が叶わなかった卒業生と保護者のため、ライブ配信が行われました。

この式では、本学にとって初めてとなる看護学部卒業生を送り出しました。祖父江学長は「感動する心を大切に、大いにチャレンジしてほしい」と式辞を述べ、小川理事長は「日々自らを研鑽し、日本、そして世界の医療のために大いに活躍してほしい」と祝辞を述べました。

卒業生を代表し、看護学部第1期生佐々木瑞恵さんは「建学の精神である「医療人たる前に、誠の人間たれ」のもと、岩手の地で医療人を志し勉学に励んだことへの誇りと感謝を忘れず、誠の医療人を目指すべく日々精進していきます」と力強く抱負を語りました。

岩手医科大学報 vol.534 (令和3年3月発行)

最終講義が行われました

3月8日(月)、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しみました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しみない拍手が送されました。



左から：嶋森教授、三浦教授、宮本教授、佐原教授



左から：佐藤教授、藤井教授、駒野教授、櫻井教授、小山教授

岩手医科大学報 vol.534 (令和3年3月発行)

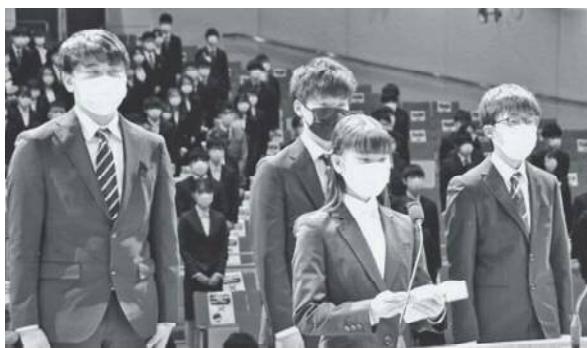
令和3年度岩手医科大学入学式が挙行されました

4月16日(金)、岩手県民会館大ホールにおいて、岩手医科大学入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染対策として、入学生及び教員のみの参加とし、参加できなかつた保護者や教職員に向けて、ライブ配信が行われました。

式は、国歌斉唱（感染対策のため演奏のみ）に始まり、各研究科の新入生50名、3学部の編入学生8名、4学部の新入生293名の合計351名に対する祖父江学長からの入学許可宣言がありました。研究科を代表して板持雅知さん（医学研究科）、学部を代表して瀧澤友理さん（医学部）から宣誓があり、その後、祖父江学長からの式辞及び小川理事長からの祝辞に続き、在学生を代表して医学部4年岡橋亮さんから在学生歓迎の辞が述べられ、最後に校歌斉唱（演奏のみ）を行い、閉式となりました。新入生は新たな門出の一歩を踏み出し、期待に胸を膨らませている様子でした。



岩手県民会館大ホールで挙行した入学式



学部代表者による入学生宣誓

岩手医科大学報 vol.535 (令和3年5月発行)

盛岡市の新型コロナワクチン接種が内丸メディカルセンターで開始されました

5月31日(月)、内丸メディカルセンター（旧：PET・リニアック先端医療センター）において、盛岡市一般市民向け新型コロナワクチン接種が開始されました。このワクチン接種は、平日の午後に90歳代を皮切りに年齢区分による予約スケジュールに応じて接種を進めています。予約は、盛岡市の予約フォームまたはコールセンターから行うことができます。また、6月21日(月)からは、歯科医師による新型コロナワクチン接種が始まります。これは、ワクチン接種の加速とワクチン接種業務にあたる医療従事者確保を目的に行われています。現行法上、ワクチン接種の為の筋肉内注射は医師又は医師の指示の下に保健師、助産師、看護師、准看護師しか行えませんが、集団接種の特設会場であること、厚生労働省が求める必要な研修（講義と実技）を受講していること、及び歯科医師による接種について被接種者が同意していることの3つの条件を満たしている場合に限り認められます。新型コロナウイルス感染症対応により、医療提供体制が逼迫し、ワクチン接種を行う人材の確保が困難であることを踏まえ、下沖内丸メディカルセンター長は「ワクチン接種は新型コロナ感染症対策の切り札であるが長期戦が見込まれる。歯科医師による接種が始まることで、継続可能な接種体制の構築が可能になる。内丸メディカルセンター職員一丸となって新型コロナ感染



内丸メディカルセンターウクチン接種会場



歯科医師対象のワクチン接種研修

症終息に向けた役割を果たしたい」と語られました。

岩手医科大学報 vol.536 (令和3年7月発行)

奥羽大学歯学部 ■

自衛消防訓練

12月15日(火)15時から自衛消防訓練を実施した。医療業務従事者に加え、歯学部基礎教育の教員や大学の職員、附属病院内で職務にあたる委託業者等多くの参加者があった。

訓練では「病院棟3階東側総合歯科診療室付近から火災が発生し、5階に2名逃げ遅れた者がいる」という想定に基づき、119番通報、患者さんの避難誘導、救助袋による避難訓練、消防設備の取り扱い、消火器による消火訓練等を行った。



奥羽大学報 167号 (No.293) (令和3年3月発行)

歯学部新入生オリエンテーション

4月5日(月)～7日(水)第3講義棟にて、歯学部新入生を対象としたオリエンテーションを開催した。

歯学部長・学生部長・学年主任・クラス担任の紹介に始まり、学生生活関係、教務関係等の説明、学内教員による特別講演「健康増進法に伴う敷地内全面禁煙について」「コミュニケーションの重要性」「より良い人間関係づくりとストレスマネジメント」「方言を介したコミュニケーション」などが行われた。慣れない環境で、また新型コロナウイルス感染防止対策下での行事となつたが、一人ひとりの眼差しからは、新たな仲間とともに、歯科医師への道の最初の一歩を進もうとする決意を感じることができた。

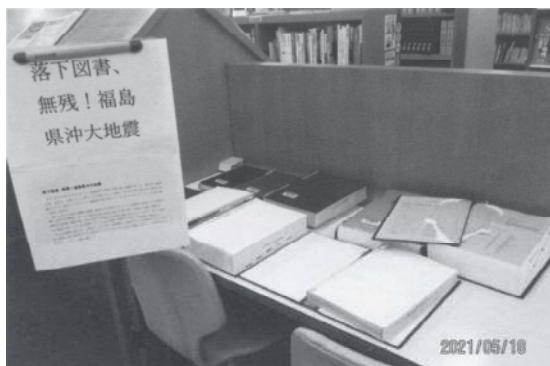
奥羽大学報 168号 (No.293) (令和3年6月発行)

図書館でミニ展示 「破壊された本たち」

2月13日(土)に発生した福島県沖地震は郡山市震度6

弱で、本学でもかなりの損傷を受けた。

図書館では書架からの落下図書52,800冊、表紙のはがれ、背の壊れ、本のゆがみなどの破損図書270冊を数えた。また建物壁面と天井の損傷などは図書館1階で小8か所、2階で小9か所、大4か所あった。地震の恐ろしさを記録写真に収め、防災の一助になればとの目的で、地震直後に撮影した写真と破壊された図書を図書館1階に展示した。展示期間は4月5日(月)～5月31日(月)。



破損図書の一部を展示

奥羽大学報 168号 (No.293) (令和3年6月発行)

大学院特別研修セミナーの開催

2021年度第1回大学院特別研修セミナーが6月4日(金)午後5時15分からオンラインで開催され、東京大学医学部・医学系研究科 臓器移植医療センター准教授の佐藤雅昭博士が、「いかにして優れた研究活動を行っていくのか?」という題で講演を行った。

大学院生や若手教員がいかにして国際的な学術雑誌にアクセプトされる論文を書いていくかについて、研究テーマの見つけ方から始まり、論文作成の具体的な方法まで詳しく丁寧な説明があった。指導的立場の教員に対しては、どのように指導することで研究力を伸ばすことができるのかということに関して具体的な提案がなされた。

講演後に、多くの大学院生や教員から非常に有益なセミナーであったとの感想が寄せられた。当日は、大学院生・歯学部教員・薬学部教員の計127名が参加した。

奥羽大学報 168号 (No.293) (令和3年6月発行)

■ 明海大学歯学部 ■

在日中国企業協会と包括連携協定を締結

12月24日、明海大学と在日中国企業協会は、人的ま

たは知的資源の交流を図り、教育、文化などの分野における連携を通じて相互の発展と日中友好に資することを目的に、在日中国企業協会と「包括連携に関する協定」を、また、国際人材交流協会と「キャリア支援に関する覚書」を締結した。

締結式では、宮田淳理事長が「これらの取組をさらに



写真左から、国際人材交流協会会长・張一成氏、在日中国企業協会副会長・鞠文永氏、在日中国企業协会会长・王家馴氏、学校法人明海大学理事長・宮田淳、明海大学学長・安井利一、明海大学浦安キャンパス キャリアサポートセンター長・内苑孝美

※撮影のためマスクを外しています

学校法人明海大学と在日中国企業協会との 包括連携に関する協定

(目的)

教育、文化等の分野で相互に協力し、人材育成に寄与することを目的とする

(連携協力事項)

- 教育・文化及び研究促進に関すること
- 人材の育成に関すること
- 人材及び知的資源の活用に関すること
- 在日中国企業協会加盟企業関係者への歯科医療等を通じた健康増進に関すること
- その他、両者が必要と認める包括連携に関すること
- その他、両者が必要と認める包括連携に関すること

明海大学と国際人材交流協会との キャリア支援に関する覚書

(目的)

明海大学に在籍する学生に対するキャリア支援を通じてグローバル人材を育成することで、日中相互の発展と友好に資することを目的とする

(連携協力事項)

- 企業人育成研修の実施に関すること
- 各企業へのインターンシップの実施に関すること
- 日本国内での就職希望学生の推薦及び採用に関すること
- その他、相互が必要と認める事項に関すること

強固なものとし、建学の精神をより一層具現化していくために、在日中国企業協会の皆様とは、このたび締結させていただく包括連携協定を基に、さまざまな連携協力体制を築いてまいりたいと考えております」と挨拶した。在日中国企業協会の王家馴会長は「明海大学は立派なキャンパスとすばらしい学生を有している大学だと存じている。在日中国企業として日本社会の発展に責任をもち、貢献していく。日中発展のためにお互い協力し合い、人材育成、インターンシップなどで連携をつくっていきたい」と今後の発展について述べた。今後、本協定の下、3者がますます友好な関係を築くことが期待される。

MEIKAI NEWS LETTER 第241号（令和3年1月発行）

ホワイトコートセレモニー開催

—歯科医師へのモチベーション向上へ—

4月5日、坂戸キャンパスで、「ホワイトコートセレモニー」が開催された。このセレモニーは、5年次から開始される臨床実習に向けて、歯科医師になるためのモチベーション向上を図ることを目的に、学生に白衣の授与を行うもの。当日は、申基皓歯学部長・病院長からの訓示、中村睦夫歯学部同窓会長からの祝辞の後、学生はそれぞれの席に用意された白衣を受け取った。また、学生を代表して義原雅博さんが「臨床実習生として社会的責任を常に自覚し、医療に携わる一員としての知識・態度の修得を目指し、積極的に臨床実習に参加することを誓います」と宣誓した。白衣はこの日のために歯学部同窓会により製作・贈呈されたもので、左胸ポケットにはギリシャ神話に登場する名医アスクレーピオス（Aesculapius）が持つ杖と、国際未来社会で活躍する歯科医師をイメージした地球をモチーフとしたエンブレムが施されている。学生はネーム入りオーダーメイドの白衣を手にし、歯科医師になるための決意を新たにした様子だった。



宮田理事長、中村歯学部同窓会長と5年生ら
※撮影のためマスクを外しています

MEIKAI NEWS LETTER 第242号（令和3年4月発行）

保健医療学部1期生登院式

—医療の道へ自覚新たに—

3月26日、保健医療学部口腔保健学科2021年度登院式が行われ、保健医療学部口腔保健学科1期生である3年生が参加した。登院式とは、客観的臨床能力試験（OSCE）を修了した学生が臨床臨地実習に臨むにあたり医療の道へ進む自覚を新たにする式典で、保健医療学部口腔保健学科では初めての開催となった。

初めに、登院許可された学生の名前が呼び上げられると、代表として加藤栞さんに藤内祝学部長からOSCE修了証を授与された。続いて、野村七海さんから「私たち口腔保健学科1期生は、歯科衛生士となるため、臨床実習に臨む行動指針として、歯科衛生士の倫理綱領に謳われていることについて誓います」と力強い宣誓があった。藤内学部長からは「桜が満開の中、保健医療学部として初めての登院式を実施できることをうれしく思います。医療の道へ進むという自覚を胸に、新しいスタートを切ってください」とメッセージが送られた。また、金久弥生学科主任からは「学科開設時に選んだユニフォームに袖を通している皆さん姿を見ることができ、うれしく思います。これまで学んだ成果を活かし、患者様からの『ありがとう』に応えられる歯科衛生士になれるよう、がんばってください」と激励があった。



臨地実習に臨む口腔保健学科1期生
※撮影のためマスクを外しています

MEIKAI NEWS LETTER 第242号（令和3年4月発行）

保健医療学部口腔保健学科1期生の臨床臨地実習

3月に行われた登院式で登院許可を受けた保健医療学部口腔保健学科1期生は、4月に3年生となり、臨床臨地実習がスタートした。これから約1年半の期間、各臨床臨地実習施設において歯科医療だけでなく、地域保健活動や介護福祉などに関する体験学習を行う。これまでの授業で学んだ理論や技術にもとづいた実践力を身につける学修だけでなく、歯科衛生士業務や各環境における歯科衛生士の役割を学び、患者様や歯科医療従事者・多職種協働のためのコミュニケーション能力を養うことも

目的としている。

4月から8月初旬までは、歯学部付属病院の各診療科をはじめ、PDI歯科診療所や東京歯科大学千葉歯科医療センターへ、グループごとのローテーション形式で実習に臨む。第1グループとして歯学部付属病院での実習を行った学生たちは、各診療科で診療時の動作、器材の取り扱いや患者様との対応方法について学ぶとともに、診療の補助や見学を行った。参加した桑原友花さんは、「実習初日は初めて患者様を前にしてとても緊張し、自分がすべきことを考えながら行動する難しさを感じた。実習先では実際に働く歯科衛生士の方に仕事の魅力ややりがいを聞くことができ、自分がどんな歯科衛生士になりたいのか、将来像を考えるきっかけになっている。歯科治療は患者様との信頼関係が重要なので、患者様に信頼していただける歯科衛生士になれるように、実際に働く歯科衛生士の方が患者様とどのように接してどんな助言やアプローチをしているのかを見ながら多くを学びたい」と感想と今後の目標を話した。



実習先で診療補助を行う保健医療学部口腔保健学科1期生
MEIKAI NEWS LETTER 第243号（令和3年6月発行）

■ 東京歯科大学 ■

第126回卒業証書授与式

2021年3月15日(月)午前10時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、第126回卒業証書授与式が挙行された。第126期生132名が慣れ親しんだ水道橋校舎の学び舎を巣立ち、晴れやかな表情でそれぞれの道へ羽ばたいていった。今年度の卒業証書授与式は、3部制で人数を制限して開催された。また、大学院修了証授与式は同日には執り行われず、別日程となった。

卒業式は厳かな雰囲気の中、阿部伸一学生部長の開式の辞により開始された。

一戸達也副学長の学事報告に続き、山本仁教務部長より3部に別れた44名、計132名の卒業生の名前が呼名された。昨年度は卒業式が挙行できなかったこともあり、挙行できたことへの安堵と緊張が浮かぶ表情が、ステ

ージ横のテレビ画面に一人一人映し出された。井出吉信学長より、各部で最初の出席番号の第1部は芦田惇くん、第2部は古川紗都さん、第3部は西田光里さんに代表して卒業証書が授与された。各賞の受賞は、学長賞に力武七瀬さん、血脇賞には、田代憲太郎くん、小林勇太くん、小林葵さん、福増仁知香さんの4名、井上裕賞に小林勇太くん、精励賞には10名、卒業論文賞は3名が選ばれ、呼名されその場に起立した凜々しい表情がテレビ画面を通して会場中に伝えられた。

井出学長が卒業生へ向けた告辞に続き、濵谷國男同窓会会長から卒業生へ祝辞が送られた。例年在校生代表から送辞が読み上げられ、卒業生代表がこれに応える形で答辞が述べるが、今年度は第5学年の石川恵美さんの送辞と力武七瀬さんの答辞が、卒業式当日保護者や役職者、卒業生へ配布される冊子に掲載された。

例年、混声合唱部およびBig Band Jazz部のピアノ伴奏による校歌の齊唱ではなく、今年度は感染防止のため、校歌のCDを流し、声には出さず心の中で齊唱し、第126回卒業証書授与式は閉式した。

なお、記念品贈呈式は行わず、阿部学生部長より、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された旨、報告する形となつた。

式を終えた卒業生は、間隔をあけた座席に起立した状態のまま、恩師と共に記念撮影を終え、会場の外で卒業証書などを受け取り、初の試みとなった3部制による全ての行事が無事終了した。



東京歯科大学広報 第301号（令和3年6月発行）

2021年度東京歯科大学入学式

2021年4月5日(月)午前10時より水道橋校舎新館血脇記念ホールにて、2021年度東京歯科大学入学式が3部制にて挙行された。

例年、式には、名誉教授、教職員および父兄会役員も出席するが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、出席者の人数に制限を設けられ、井出吉信学長をはじめ、一部の大学役職者、同窓会会長、法人常務理事

のみ登壇し、保護者については1家族1名のみとした。

阿部伸一学生部長の開式の辞の後、国歌斉唱では、感染防止のため声には出さずに心の中で斉唱となった。続いて、山本仁教務部長が新入生128名と第2学年の編入生14名を一人一人呼名し、学生紹介が行われた。

井出学長より訓辞が述べられた後、瀧谷國男同窓会長より祝辞を頂戴し、各部で最初の出席番号の第1部は池田怜乃さん、第2部は相正照くん、第3部は井手口玲二くんが、代表して宣誓を行い、徽章授与については、第1部は井坂浩史郎くん、第2部は阿垣朋加さん、第3部は大石ちとせさんが授与され、それぞれ会場の新入生、保護者に披露された。

最後に、全員が心の中で校歌を斉唱し、3部制の入学式は滞りなく閉式した。



東京歯科大学広報 第301号（令和3年6月発行）

新千葉歯科医療センター開院

本学130周年記念事業の一環として2020年12月25日に竣工した新千葉歯科医療センターは、約2か月間にわたる開院準備期間を経て、2021年3月1日付けて、千葉市保健所から新たな医療機関として開設許可を受け開院の運びとなった。

3月6日(土)午後2時より、開院式が挙行された。来賓として本学元理事長・前学長の金子謙名誉教授、町田幸雄名誉教授、薬師寺仁名誉教授、下野正基名誉教授、同窓代表として千葉市議会議員阿部智先生のご臨席を賜った。また、設計・施工に尽力いただいた株式会社日本設計、清水建設株式会社、株式会社モリタの各社からも出席をいただいた。開院式は、司会の小林友忠千葉歯科医療センター事務部長の開式の辞に続き、井出吉信理事長・学長、一戸達也千葉歯科医療センター長からの主催者挨拶で始まった。井出理事長・学長からは、厳しい社会情勢のなかで、当初の工程から外れることなく、立派な建物が完成し開院を迎えることができたことに対し、各社への感謝と労いの言葉が述べられた。一戸センター長からは、立派な建物に魂を入れるのは、センターに勤務する教職員である旨、決意を込めた挨拶があつ

た。統いて新センター新築工事の設計・施工に尽力いたいた各社へ、井出理事長・学長から感謝状が贈られた。ご来賓を代表して金子謙名誉教授、阿部先生から祝辞をいただき、その後、テープカットのセレモニーが行われた。テープカットは、井出理事長・学長、一戸センター長、石井拓男法人主事、瀧谷國男同窓会長、株式会社日本設計の来野炎医療施設設計部副部長、清水建設株式会社三澤正俊常務執行役員・千葉支店長、株式会社モリタ森田晴夫代表取締役社長の7名により行われた。その後、祝電が披露され、小林事務部長からの閉式の辞で開院式は滞りなく終了した。緊急事態宣言発出中であることから、出席は幹部教職員のみとなり、規模は小さくなつたが、沢山の祝花のなかでの厳かな開院式となつた。

3月9日(火)、いよいよ患者を迎えて、新千葉歯科医療センターでの診療が開始された。新千葉歯科医療センターは、歯科診療ユニットが40台となり、従前と比べコンパクトにはなつたが、最新の医療機器を備えており、大学附属施設として、かかりつけ歯科医院では対応困難な専門性の高い治療を、地域の医療施設と連携していくことになる。また、水道橋病院、市川総合病院との学内連携を密にして地域医療に貢献するとともに、学生教育、研修歯科医教育等、医育機関としての役割も担っていくものである。



東京歯科大学広報 第301号（令和3年6月発行）

新型コロナワクチン接種

水道橋病院での接種状況

水道橋病院では、2021年4月30日(金)および5月7日(金)に水道橋校舎本館13階にて、第1回目の新型コロナワイルスワクチン医療従事者等への優先接種が実施された。水道橋病院は基本型接種施設の東京通信病院の連携型接種施設となっており、水道橋病院勤務者および学部登院学生、短大登院学生の中からアンケートで希望者を集め839名が接種対象になった。

ワクチンは4月23日(金)11時に東京通信病院より池田左保子薬剤師と亀山桂庶務課長が140バイアルを受け取り、本学生化学講座所有のディープフリーザーに保管された。その後、4月28日(水)18時に当院薬局の保冷庫に移送され第1回目の準備は整った。接種当日は早朝より、片倉朗病院長、山岸由幸医師、江橋延江看護部参与、古川真代看護師長、池田薬剤師、亀山庶務課長を中心に会場の準備およびワクチンの移送・分注等が行われた。問診、オンコール対応を担当した医師と歯科麻酔科医、監視、ワクチン準備・接種を担当した看護師、ワクチンの希釈・分注を担当した薬剤師と口腔外科医、予診票のチェックと問診の補助を担当した研修歯科医、誘導を担当した事務員の総勢40人の係員の尽力により接種対象者全員無事に接種がなされた。

第2回目の接種は5月21日(金)および28日(金)に予定されている。

市川総合病院での接種状況

市川総合病院は千葉県から新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受け、東葛南部における新型コロナウイルス感染症患者の入院診療を担っている。教職員が新型コロナウイルス感染症患者や疑い患者に接する機会が多いため、安全に業務を行えるよう、ワクチン接種を速やかに進めることができた。このため市川総合病院は新型コロナワクチン医療従事者優先接種の枠組みにおける基本型接種施設に手を挙げ、国から供給されるファイザー製ワクチン1,950バイアル(約12,000回分)を受け入れ、当院の医療従事者に接種すると同時に、地域の医療従事者に接種を行う連携型接種施設への供給拠点としての役割を果たすこととなった。

市川総合病院におけるワクチン接種はまず医師、看護師などの医療職を対象として3月12日(金)より開始され、13日(土)、20日(土)、21日(日)の4日間で第1クールの1回目接種を行った。ファイザー製ワクチンは2回の接種が必要なため、3週間後である4月3日(金)、10日(土)、11日(日)に2回目接種を実施した。

新たなワクチン供給を受け、新年度入職の医療職および第1クールでワクチンの数から接種対象とされなかつ

た事務職や、清掃業務、リネン業務などを委託している業者などを対象に、第2クールの接種を4月23日(金)、24日(土)(第1回目)、5月14日(金)、15日(土)(第2回目)に実施し、第1、第2クール合計で1,372名2,724回の接種を完了した。

ワクチン接種体制については、西田次郎病院長からリーダーとして任命された循環器内科部長の大木貴博教授のもと、問診医師、緊急時の対応医師、ワクチンのミキシングを行う薬剤師、接種と経過観察を行う看護師、受付・誘導を行う事務職員、ワクチン接種事務局として統括する人事課のチームで構築され、ワクチン接種を円滑に実施することができた。幸いにしてアナフィラキシーショックを生じた事例もなく、特に2回目接種の翌日は相当数の発熱者が生じたものの、予め想定して構築していた接種スケジュールによって通常業務への影響を最小限に抑えることができた。

連携型接種施設へのワクチン供給は4月19日を皮切りに毎週行っており、5月20日時点で半数程度の払い出しを完了している。今後、6～7月頃まで継続して行う予定となっている。

千葉歯科医療センターでの接種状況

千葉歯科医療センターは、医科を設置しないため、歯科医療従事者のワクチン接種は近隣の医療施設に赴いて行っている。担当医療機関と連携調整を図り、5月11日(火)から第1回目の接種が開始された。7月5日(月)には全医療従事者の接種が完了する見込みである。



東京歯科大学広報 第301号(令和3年6月発行)

■ 昭和大学歯学部 ■

根岸宗一郎さんが ジョセフ・リスター賞を受賞

—第68回国際歯科研究学会日本部会総会・ 学術大会—

根岸宗一郎さん（歯学部5年）が、第68回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会（11月7日・8日、WEB開催）で、ジョセフ・リスター賞を受賞した。

同日本部会は、歯科医学および関連分野の研究の促進を図り、口腔保健の向上に寄与するとともに、国際的視野にたって国際歯科研究学会（JADR）の発展に貢献し、社会の公益に寄与することを目的に1954年に設立された。そのなかで同賞は、1860年代に防腐法を発見し無菌外科手術への道を開いたジョセフ・リスターの名を冠したものであり、研究者をめざす歯学部の学生にとって目標の一つになっている。

根岸さんは研究テーマ「トレハロースによる破骨細胞形成の抑制」が高く評価され同賞に選定された。

根岸宗一郎さんのコメント

このたび、第68回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会において、ジョセフ・リスター賞を受賞しました。例年はポスター発表（英語）形式で行われますが、今年度はCOVID-19感染拡大を防止するため、ポスターの研究内容で一次審査、最終選考はWEBにてプレゼンテーションを行う形になりました。

私は4年次からマルチドクタープログラム受講生として口腔生化学講座に所属し、研究発表を行うのは今回で2度目となりましたが、英語での発表に大変苦労しました。特に今回は、質疑応答の時間も設けられ、自然科学分野特有の英単語や言い回しに苦戦し、改めて英語を聞く力、話す力が重要だと痛感いたしました。研究室の先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、先生方のサ



ポートのおかげで楽しく研究および発表準備をさせていただき、2位に入賞できました。

今後も研究活動を続け、この経験を活かして根気強く頑張っていきます。最後に今回の研究発表に対し、ご指導賜りました口腔生化学講座の上條先生、宮本先生、山田先生、吉村先生、笹先生、そして国際交流センターの橋本先生、マイヤース先生にこの場をお借りし、心より感謝申し上げます。

昭和大学新聞 第590号（令和3年2月発行）

頌彦玲子助教が モリタ優秀発表賞を受賞

—第62回国際歯科基礎医学会学術大会—

頌彦玲子助教（歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門）が、第62回国際歯科基礎医学会学術大会（9月11日から10月9日、WEB開催）で、生化学分野のモリタ優秀発表賞を受賞した。

同学会は1959年に設立され、解剖学、組織発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、病理学の7分野の研究者で構成されている。これら各分野の口や顎、顔の多様な研究テーマに対する取り組みを介して、生命科学发展への寄与と歯科臨床への貢献という役割を担っている。

頌彦助教は研究テーマ「ゾレドロン酸による末梢血単球の破骨細胞分化抑制」が高く評価され同賞に選定された。

頌彦玲子助教のコメント

このたび、第62回国際歯科基礎医学会学術大会においてモリタ優秀発表賞を受賞しました。このような名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

今回、我々は窒素含有型ビスホスホネート製剤（N-BP 製剤）の一種であるゾレドロン酸（ZOL）のヒト末梢血単核細胞（PBMCs）に対する作用を解析しました。ZOLで刺激した PBMCs において、多数の骨代謝関連遺伝子が変動することが明らかになり、中でも、



CD14細胞において、破骨細胞分化抑制性の転写因子IRF8の発現がZOLにより誘導されることを発見しました。本研究は、ZOLの新たな作用機序の解明につながるものと期待しております。

本学会での発表は、新型コロナウイルスの影響によりWEB開催となり今までとは異なる形式となりましたが、先生方にご指導いただき大変有意義な経験をさせていただきました。今後も、より一層歯学研究に精進していきたいと考えております。最後になりましたが、ご指導をいただきました口腔生化学講座の上條竜太郎教授、宮本洋一准教授、口腔外科学講座の代田達夫教授をはじめ、多くの先生にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

昭和大学新聞 第590号（令和3年2月発行）

富士吉田キャンパスに新学生寮が完成

令和3年3月26日、富士吉田キャンパスに新たな女子寮「百合寮」が完成し、その竣工式が挙行された。

当日は晴天に恵まれ、富士山の雄大な景色を仰ぎつつ、定礎除幕式、神事、内覧会が執り行われた。

このたび竣工した百合寮は地上6階建てで、赤松寮、白樺寮、すみれ寮と同様に、学生4人につき、学習用・寝室用にそれぞれ一部屋が配置され、共同スペースとして、学習スペースやラウンジ、浴室などがある。浴室には昭和大学温泉が引き込まれ、毎日、温泉入浴を楽しむことができる。

令和3年4月、百合寮は初めて学生を受け入れ、一生の思い出となる1年次の寮生活がスタートする。



竣工した百合寮



定礎除幕式



百合寮から見た富士山

昭和大学新聞 第593号（令和3年5月発行）

令和3年度 歯学部白衣授与式

5月11日、令和3年度歯学部白衣授与式を上條記念館で挙行した。同式は、臨床実習にのぞむ歯学部5年生が倫理観や患者さんに対する思いやりの心を再認識して、歯科医師を目指す者としての心構えを新たにする目的で毎年実施している。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、校歌齊唱は清聴のみにするなど、必要な措置を講じたうえで対象学年と一部の大学関係者のみで執り行なわれた。

横宏太郎歯学部長は告辞で、「臨床実習はプロフェッショナル醸成の場であり、患者さんの悩み、不自由さに寄り添うことが重要です。今までの快適な学修環境から抜け出て、臨床という大変厳しい場に赴くことになります。同時に、現在の歯科医療の問題点を考えながら見つめ、卒後の人生および研究マインドにつなげてください。実りある臨床実習を望みます」と述べた。

白衣は、5年生100名の中から学生代表の木内彩紀さんに、横歯学部長より授与された。学生たちは真新しい白衣を身につけ、これから始まる臨床実習への決意を新たにした。

列席者からの祝辞の後、「先輩からの言葉」と題して臨床研修歯科医による講話が行われた。講話では「臨床実習の場は、今までの学修が活かされ、歯科医師の姿を

実感できる機会です。問題点は自分自身で見つけ、至誠一貫を体現することを目指してください」とのメッセージが送られ、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

最後に学生代表の東郷健真さんが昭和大学宣言を行い、医療人としての誓いを新たにし、閉式となった。

これから卒業まで、学生は本学附属病院および関連実習施設における実習課程で研鑽を重ねていく。



告辞：槇宏太郎歯学部長



白衣授与：木内彩紀さん

昭和大学新聞 第594号（令和3年6月発行）

■ 日本大学歯学部 ■

令和2年度 第1回 FD 講習会

—日本大学歯学部におけるICT教育—

FD委員会副委員長 小泉 寛恭

ファカルティデベロップメント(FD)とは、教員の授業内容や方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称であります。歯学部の大半の教員は、歯学教育を受けておりますので、医歯学の知識には長けております。一方で、その知識を教え、医療人を育てるといった方法論に関しては、系統的に学ぶ機会が少ない現状があります。歯学部のFD活動は、教員への教育方法論等を指導・サポートし、教育の質の向上を目指す取り組みを行っています。

令和2年度は、皆様ご存知のようにコロナ感染症の影響により、歯学部学生教育の現場も未曾有の対応を迫られました。大半の授業が、オンラインを使用して行われ

ければならない現状に直面いたしました。

今回の歯学部FD講習会は、急務であるオンライン授業の教育の質の向上を目指として、総合大学である日本大学のスケールメリットを生かし、日本大学理工学部から、インターネットによる教育支援にかかるおられる長谷部 寛准教授を講師にお迎えしました。コロナ禍の理工学部における教育支援について『理工学部の取り組みと効果的なオンラインものづくり教育の模索』というテーマで講習会を開催いたしました。講習会の開催形式は、Youtubeでの限定公開とし、視聴対象教職員にURLを配信いたしました。

講習会後のアンケートでは、8割以上の教員が良かったと回答しております。今回学んだオンラインによる教育手法は、当然、理工学部と歯学部で教育内容は異なりますが、同じ日本大学教育憲章の下、実験・実習系授業の存在など、カリキュラムには共通する点が多くあります。理工学部のインターネット教育支援の実例をもとに、歯学部として、また個人レベルでのインターネットによる教育力の改善を図るための端緒を得たと思います。

(准教授 歯科理工学講座)

歯学部FD講習会

**理工学部の取り組みと
効果的なオンラインものづくり教育の模索**

理工学部 ICT教育支援委員会 副委員長
土木工学科 准教授
長谷部 寛

桜歯ニュース 第210号（令和3年4月発行）

■ 日本大学松戸歯学部 ■

同窓会から院内生用個人防護具を贈呈いただきました

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、日本大学松戸歯学部同窓会から、在学生に対する支援として院内生用個人防護具（フェイスシールド・エプロン）贈呈の申し出をいただいた。コロナ禍において、院内生が安全に実習を行うにあたって必須のものであり、今回の同窓会からの申し出は松戸歯学部並びに松戸歯学部付属病院にとって大きな支援となった。

12月3日(木)に行われた「令和2年度 松戸歯学部・松戸歯学部同窓会合同協議会」において、阿部正也同窓会会长から目録が手渡され、小方学部長及び河相病院長が同窓会に対し感謝の意を表した。



松戸歯ニュース 第176号（令和3年1月発行）

5年次 登院式・戴衣式

4月1日(木)午前11時30分から、令和3年度登院式・戴衣式が101教室において行われた。まず、登院式において、河相安彦病院長による告辞により100名の登院が認められた。続く戴衣式では、5年次代表学生に白衣及びSD証が授与され、同代表学生が登院にあたっての誓詞を読み上げ、小方頼昌学部長による式辞、河相安彦病院長による訓辞があり厳粛に執り行われた。



松戸歯ニュース 第177号（令和3年4月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

附属病院 全国最初に接種

東京 新潟 大学職域接種も —歯科医師によるワクチン注射

新型コロナウイルスのワクチン接種に関し、本学附属病院（東京）は5月25日全国最初に、歯科医師による歯科大学病院での医療従事者等への優先接種を実施した。大学の職域接種も、附属病院、医科病院ともに、全国に先がけて6月下旬に行なった。



歯科医師によるワクチン接種(本学附属病院・5月25日)

日本歯科大学新聞 第670号（令和3年6月発行）

本学創立115周年式典

富士見に50名余が参列する

本学の創立115周年記念式典は、6月1日の創立記念日に東京・富士見で挙行された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本学役職者と永年勤続表彰の代表者等約50名が参列した。あわせて、井出吉信先生への名誉博士授与式が行われた。昨年につづいて記念祝賀会、ジュビリー5025は中止した。

東歯大 井出理事長・学長に名誉博士号

日本歯科大学創立115周年記念式典は、6月1日午前11時から生命歯学部富士見ホールにおいて、約50名余が参列して挙行された。

田口潤庶務部長が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本日の式典は規模を縮小し、簡略化したこと斬り、開会を宣した。

例年通り築土神社の神職による神事が執り行われ、修祓、降神ののち、祝詞で本学の沿革が奏上された。ついで、参列者を代表して、中原泉理事長が神前に進みて、玉串を奉奠し拝礼した。

神職退場ののち、中原理事長は挨拶に立ち、創立115周年の式典を挙行し、幾多の先人に感謝を捧げた。

つづいて、名誉博士授与式に移る。

中原理事長は、東京歯科大学の井出吉信理事長・学長

を紹介し、現在、東歯大と日歯大は115年の歴史上もつとも友好的な関係にあり、それは井出理事長・学長の協力に由ると称賛した。

その後、中原理事長より井出理事長・学長に、第24号の名誉博士の学位記が授与された。

これに対し、井出理事長・学長より、中原理事長との友情を通じ、両校は強い協力関係にある、と感謝の言葉が述べられた。

ついで、永年勤続者表彰に移る。30年勤続者17名、20年勤続者15名が呼びあげられ、代表して秋山仁志教授が、中原理事長から表彰状を授与された。

12時に閉式した。



創立記念日を迎えた覚悟を述べる中原泉理事長



謝辞を述べる井出理事長・学長



名誉博士号の学位記をもつ井出理事長・学長と中原理事長

日本歯科大学新聞 第671号（令和3年7月発行）

CPF 更新(東京) 唯一の細胞培養加工施設

生命歯学部の細胞培養加工施設(CPF)は、医薬品医療機器総合機構の実施調査を経て、7月27日付にて特定細胞加工物製造の更新許可をうけた。

大学の歯の細胞バンク(施設管理者：中原貴教授)は、再生医療法にもとづく細胞培養加工施設の設置を必要とし、2016年に歯科大学では唯一の施設として許可された。このたび5年毎の更新の許可をうけたもので同施設を継続して使用することになった。



日本歯科大学新聞 第671号（令和3年7月発行）

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

本館と1号館を改修

新潟生命歯学部では、昨年から本館と1号館3階の改修工事を進め3月に工事が完了した。

本館の図書館は3階の図書閲覧室をリニューアルし、天井までの高さの書棚を設置した。歯学図書、医学図書、一般書などを書棚ごとにわかりやすく配置するとともに、パソコンによる検索と、電子ジャーナルの閲覧が容易なように、PC端末を整備した。

また1995年に逝去された加藤謙治教授（口腔外科学・元新潟歯学部長）の蔵書を図書館の書庫で保管していたが、改修に伴い「加藤文庫」として閲覧室の書棚に配列している。

なお1号館3階に配架していた製本済みの和雑誌と洋雑誌については、バックナンバーがネットで閲覧できること、また同一学術雑誌は生命歯学部図書館に所蔵しており、相互貸借できることから除籍処分にし、空いたスペースを自修室に改修した。



歯学図書、医学図書、一般書などを書棚ごとにわかりやすく配置



自修室ドアには難関突破のおまじない「開けゴマ」

日本歯科大学新聞 第668号（令和3年3月発行）

■ 神奈川歯科大学 ■

唾液力！PartⅡ

—唾液腺マッサージ—

神奈川歯科大学副学長 口腔科学講座教授 構木恵一

唾液は成人で1日に1～1.5リットル分泌されます。しかし、ストレスやマスク生活が長期化し唾液の分泌が少なくなっていることが危惧されます。そこで、唾液の分泌を簡単に促せる唾液腺マッサージを紹介します。唾液腺は、耳下腺、頸下腺、舌下腺と小唾液腺がありますが、この三つの唾液腺をマッサージするのが有効です。

サラサラ唾液を出す耳下腺は、両耳の下から少し前の位置に入差し指、中指、薬指を当て、円を描くように回して優しく刺激します。2分以内で、10回以上繰り返してください。

サラサラ唾液とネバネバ唾液の両方を出す頸下腺は、両手で握りこぶしを作つてあごの下から左右に当て、手前に向かって動かします。10回以上繰り返します。

ネバネバ唾液を出す舌下腺は、両手の親指を当て、あごの下から舌の部分を軽く押します。7～10回やってください。

耳下腺マッサージが一番効果的です。ぜひ、試してみてください。但し、効果がない場合は、かかりつけ歯科医院で一度調べてもらうことをおすすめします。

唾液力低下NG生活习惯

- | | |
|----------|--|
| NG生活习惯 1 | ストレスが慢性的で、解消できない状態。唾液量も減る要因になる。 |
| NG生活习惯 2 | いわゆるばかり食、好きな物しか食べない食生活。食物繊維や発酵食品などバランスよく食べてない。お肉など油っこい食べ物が多い。唾液量が減る要因になる。 |
| NG生活习惯 3 | お酒を毎日飲み、肝休日をとらない。慢性的なアルコール摂取。唾液量が減る要因になる。 |
| NG生活习惯 4 | 運動が嫌いで全然運動しない、あるいは、運動が好き過ぎて運動している。 |
| NG生活习惯 5 | 歯磨きを丁寧にしない。歯磨きしていても1分以内とか、1日1回しかしないことが多い。腫のいい歯垢がせっかく出たとしても、口の中がきたなければ、折角の成分も働きが続く。 |
| NG生活习惯 6 | 汗をかきたくないやトイレに行きたくないので、出来るだけ水分をとらないようにしている。唾液量が減る要因。 |
| NG生活习惯 7 | 早食いを得意としている。良く噛まないと、唾液もでない、pHの調整力も弱まります。 |



学校法人神奈川歯科大学新聞 第39号（令和3年1月発行）

ハブラシコンセイエ誕生！

横須賀市では、『歯及び口腔の健康づくり推進条例』が2020年10月1日(木)施行され、附属病院は患者サービスの一環として1階売店をオープンスペースへ移転、「デンタルラウンジ」としてリニューアルしました。日常の口腔ケアに関するアドバイザーとなるべく『ハブラシコンセイエ』認定制度を設立し、さらなる口腔ケア推進に取り組んでまいります。耳慣れないコンセイエ(conseiller 仏語)はコンシェルジュの語源といわれ、直訳すると「助言する」ということになりますが、フランスではワインソムリエとは異なり“ワイン販売員”的呼称として広く用いられています。今回の認定に際し、歯ブラシに関する専門知識を持ったアドバイザーという意味での造語として、『ハブラシコンセイエ』といたしま



した。

活動内容は、今まで診療室で行ってきた歯科衛生士による口腔清掃指導だけではなく、患者さんが日常使用する口腔ケアグッズ等の相談・選択に際して、「口腔ケアお勧め処方箋」を発行し患者さんに寄り添った情報提供を行うべく、1階デンタルラウンジ（売店）と協働して行うものです。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第39号（令和3年1月発行）



学校法人神奈川歯科大学新聞 第39号（令和3年1月発行）

県警・海保に歯科身元確認指導

2020年11月12日(木)、「警察官・海上保安官のための法歯学研修会」が本学実習室にて開催されました。本学大学院災害医療・社会歯科学講座山田良広教授ら教室員が、神奈川県警察署の捜査一課検視官、署の鑑識課員や海上保安庁第三管区海上保安部から保安官ら参加者48名を対象に指導しました。午前は、最近のDNA鑑定事例、歯科の基本知識、大規模災害時の歯科身元確認の実際などの講義、午後は、遺体様マネキンを用いてデジタルチャートの作成や口腔内写真撮影を演習し、人体標本頭蓋骨を用いて性別判定を行いました。また焼死体や溺死体の鑑定事例写真から照合作業などの実践的な実習を行いました。歯科身元確認は、DNAよりも迅速かつ安価でできるので非常に有効ですが、生前の歯科資料の収集は警察官らによる地道な捜査にかかっています。研修会で学んだことを今後の捜査業務に役立てていただければと思っています。



AR/VR 教育の取り組み

板宮朋基教授が手掛ける画像処理と3D-CGおよびバーチャルリアリティ（VR：人工現実感）・拡張現実（AR）について紹介します。板宮教授は、学生時代から医・歯学部の先生方と手術シミュレーションや遠隔会議・講義自動録画システムの研究開発に取り組んで来ました。最近はメガネ型デバイスHoloLensを用いて術野に血管や神経・腫瘍などを表示する手術ナビゲーションシステムの開発と臨床試験、裸眼で立体視が可能な空間再現ディスプレイを用いた解剖学教育コンテンツの制作を行っています。また、東日本大震災をきっかけとして防災分野にも関わるようになり、AR/VRの防災教育への応用に取り組んでいます。今いる目の前の風景に浸水や煙をリアルに重ねて表示できるARアプリやVR地震体験アプリを開発し、各地の小・中学校や地域の防災訓練で活用されています。これらのアプリは、誰でも災害リスクを「わがこと」として実感できるようになるため、テレビや新聞等で度々取り上げられています。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第39号（令和3年1月発行）

■鶴見大学歯学部■

歯学部法医歯学講座勝村聖子准教授が 神奈川県南警察署より 感謝状を授与されました

神奈川県横浜市で令和2年9月、身元不明の傷病人が発見され、身元確認が困難であったところ、勝村聖子准教授の法医歯学の技術を活用し、身元確定に至りました。勝村准教授は日頃、神奈川県警と連携して、火災や高度腐敗のご遺体の身元確認のための歯牙鑑定は行っておりましたが、生存者の歯牙鑑定での身元確認は神奈川県内では初めてで、令和2年12月15日(火)に神奈川県警察南警察署長より感謝状が授与されました。



鶴見大学報 第424号（令和3年3月発行）

鶴見大学歯学部附属病院 功労賞授与式

令和2年1月に新型コロナウイルス感染が日本で確認され、瞬く間に日本国内に蔓延を始めました。当院においても3月になり診療前に患者様へ新型コロナウイルス感染症に関するアンケートを取り、慎重に診療を進めてまいりました。しかし、発熱のある患者様が来院した場合はどのように対処すべきかなど、これまでとは全く異なる前例のない状況下において我々が右往左往する中、いち早く新型コロナウイルス感染症初期対応として発熱者あるいは感染が疑われる患者様の来院時の動線および診療の流れについてのマニュアル作成等にご尽力いただきました中川洋一先生、長谷川雅子先生、福井有里先生、ならびに病院事務部に対して病院功労賞を授与し、その功績をたたえることいたしました。そして、令和2年12月23日に病院棟大会議室にて授与式を執り行いました。改めて皆様には感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

もちろん、病院正面玄関でのスクリーニング、日常診療における感染防護等の実施にご協力頂きました全ての病院スタッフの皆様のお力添えがなければ成し得ないことです。新型コロナウイルス感染症が終息した時期を見計らいましてご協力いただきました全ての皆様にも感謝の意を表したいと思っております。

新型コロナウイルス感染症のまさに第3波の中、さらに気を引き締めていかなければなりません。受賞されました先生方そして皆様どうぞ、さらなるご協力をよろしくお願ひいたします。 （病院長 五味 一博 記）

鶴見大学報 第424号（令和3年3月発行）

「小児歯科学雑誌優秀論文賞」 受賞について

令和2年3月の公益財団法人日本小児歯学会理事会において、鶴見大学歯学部小児歯科学講座平山展大学部助手が小児歯科学雑誌優秀論文賞を受賞しました。論文タイトルは、「小児におけるS-PRGフィラー含有シーラントとレジン系シーラントの保持率および齲蝕抑制効果の比較検討」で、予防填塞材の臨床成績を3年間に渡り調査し、重要な知見を報告しました。さらに、令和3年3月4日には、日本小児歯学会会員に向けて受賞講演を行いました。（小児歯科学講座 朝田 芳信 記）

鶴見大学報 第426号（令和3年5月発行）

■松本歯科大学■

河北医科大学との オンライン臨床実習を実施

12月30日(水)、本学は姉妹校である中国・河北医科大学とオンラインを利用した臨床実習を実施した。本学の第5学年生9人と河北医科大学の5年生6人が参加し、自学病院の医療体制や臨床実習の内容について発表し、互いに触発される情報交換が行われた。

中国河北省の省都石家庄市にある河北医科大学との交流は、1986年から始まり、1996年には姉妹校関係を締結。2015年からは本学歯学部第5学年の学生を派遣し、河北医科大学口腔医学院等にて臨床実習を行っている。河北医科大学からは、2017年より第5学年生が来学して本学病院にて実習を行い、学生間の相互派遣を行ってきた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で双方の派遣を中止していたが、臨床実習を通じた症例や相

手国の医療環境を学ぶ重要性があることから、オンラインを利用して実現した。



学長室でオンライン臨床実習に臨む第5学年生



河北医科大学における歯科治療の映像

Campus Today 第445号（令和3年2月発行）

臨床検査室に PCR 検査装置導入 —COVID-19 感染対策をさらに高める—

1月22日(金)、病院臨床検査室に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のPCR検査装置(ベックマン・コールター社)が、本学校友会の寄贈により導入され、25日(月)より稼働を開始した。

新たに導入されたCOVID-19のPCR検査装置「GeneXpert®システム」は、検体をこの装置に投入しスタートさせるだけの極めて簡便な操作で使用できる。



PCR 検査装置 GeneXpert® システム

複数の検体の検査が可能で、測定時間約45分と超短時間で正確性の高い陽性／陰性結果が得られ、臨床検査における有用性が高く評価されている。

本学病院におけるPCR検査は地元企業などからの検査依頼が増えている。これまで検体を採取して解析は外注で行ってきたが、今後は緊急性を有する検体の解析を自前ででき、結果も迅速に報告できる。

Campus Today 第445号（令和3年2月発行）

上級生が新入生を歓迎 「ウェルカムディナー」で親睦深める

上級生が新入生を歓迎する「新入生歓迎夕食会(ウェルカムディナー)」が蒼穹会の支援を受け、4月30日(金)午後6時より学生食堂で開催された。

今年は第3学年の伊藤公平君がリーダーとなって、第2学年から第4学年までの学生有志15人が主催し、約70人の新入生を歓迎した。

新入生たちは、特別メニューのディナーを楽しみながら、勉強のこと、クラブ活動のこと、学生生活のことなど、先輩たちからのアドバイスを真剣に聞き、同級生や上級生と親睦を深め、これから始まるキャンパスライフに夢を膨らませていた。



安藤宏学年主任を囲んで歓談する新入生

Campus Today 第449号（令和3年6月発行）

地域の歯科医療者・高齢者らに ワクチン接種

一本学病院と図書会館が接種会場に 中核的医療機関として地域に貢献—

松本歯科大学病院は、5月23日(日)と30日(日)の休日を利用して、松本市歯科医師会および塩筑歯科医師会所属の歯科医院の医療従事者(歯科医師・歯科衛生士等)約800人に新型コロナウイルスのワクチン接種を

行った。本学病院の医師3人、看護師8人、歯科医師6人、薬剤師1人他事務員等を含め約30人のスタッフにより実施され、会場および駐車場誘導担当として歯学部学生約10人も活躍した。

また5月25日(火)からは塩尻市の高齢者を対象にしたワクチン接種を開始。ワクチン接種の態勢を整え、地域に貢献していく。



地域の歯科医療従事者約800人へワクチン接種が行われた



高齢者へのワクチン接種

Campus Today 第449号（令和3年6月発行）

■朝日大学歯学部■

創立50周年を迎えて記念植樹

本大学は、1月19日で創立50周年を迎えました。これを記念して、2月25日に創立者である宮田慶三郎先生の胸像前にて記念植樹が行われました。

多くの教職員が参加し、本大学が一層たくましく発展・成長することを祈りつつ、教職員の手により記念の「シダレザクラ」を植樹しました。

宮田淳理事長は、「今年で50周年を迎えました。この木が、新たな50年を迎えるまでに、次の世代に見守られつつ成長して欲しいという思いと、共に本大学が成長・発展する願いを込めてシダレザクラの木を選びまし



宮田理事長の挨拶



植樹をする宮田理事長と大友学長



大学の発展を願う教職員

た」と挨拶しました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第133号
(令和3年5月発行)

White Coat Ceremony 2021

歯学部登院式を実施

歯学部5年生の登院式（白衣授与式）が、4月10日 穂積キャンパス6号館6201講義室で厳粛に行われました。この登院式は、5年生が参加型臨床実習を始めるにあたり、本格的な実習教育への第一歩を踏み出す節目として実施されています。

登院式では、倉知正和副学長から「登院の許可」、田村康夫歯学部長からの激励に引き続き、藤原周医科歯科医療センター長から白衣と合わせて2020年度から新たに実施されているStudent Dentist認定証が授与され、学生らは歯科医師を志す気持ちを新たにしていました。



倉知副学長の登院
許可と告示



田村歯学部長の激励挨拶

医療人としての決意表明

その後、学生代表の西井由衣さんから「社会的責任と医療人としての自覚を持ち、真摯に実習に取り組みます」との決意があり、参加型臨床実習への第一歩を踏み出す素晴らしい門出となりました。



西井さんの決意表明

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第134号
(令和3年7月発行)

春の叙勲を受章

「瑞宝中綬章」

令和3年（2021年）春の叙勲において、本大学の名誉教授である竹内宏先生が「瑞宝中綬章」を受章されました。

竹内先生は、歯学部口腔病理学講座の教授、また、副学長として日本の口腔病理学の発展と教育・研究並びに大学運営に寄与された功績が認められ、受章となりました。



竹内先生(名誉教授)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第134号
(令和3年7月発行)

歯学部課外セミナーを開講

発展的な学習機会を提供

歯学部歯科医学教育推進センター（永山元彦センター長）主催の「2020年度歯学部課外セミナー」が3月1日～11日の期間に開講されました。

課外セミナーは、カリキュラムの教育内容を基盤として、講義及び実習に関する発展的な学習機会を提供することで、学生の知識、技能及び態度の更なる向上を図ることを目的に開講され、各研究領域の研究室が主体となりセミナーを実施しました。

学部学生や大学院生は、真剣な眼差しで講義・実習に取り組んでいました。



気管挿管を体験実習



スポーツマウスガードの作製



セミナー修了証を受領

- ・頸部＆頭部局所解剖リカレントセミナー
- ・口腔内スキャナーを用いた1-day treatment体験
- ・気管挿管体験実習
- ・スポーツマウスガードの作製

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第134号
(令和3年7月発行)

■愛知学院大学歯学部■

令和2年度 第55回歯学部学位記授与式を挙行いたしました

3月5日(金)楠元キャンパス110周年記念講堂で「令和2年度 歯学部学位記授与式」を挙行し、卒業生121名へ引田弘道学長から学位記が授与されました。



式を終えた卒業生は、恩師に見送られ、晴れやかな表情で会場を後にしました。

卒業生・保護者の皆様、このたびはおめでとうございます。今後ますますのご活躍を心から祈念しています。

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和3年3月掲載）

故長谷川二郎元歯学部長 追贈名誉教授授与式が行われました

故長谷川二郎 元歯学部長に愛知学院大学追贈名誉教授の称号が授与されました。

奥様に来校していただき、授与式を行った後、奥様よりご家族からのお言葉をいただきました。

長谷川二郎先生は、昭和39年9月に愛知学院大学歯学部歯理工学教室に助教授として就任され、歯学部の創設の黎明期から、平成13年8月に逝去なさるまで、愛知学院大学に奉職されていました。

昭和54年9月に教授に昇任され、平成6年4月から平成12年3月まで歯学部長に就任されました。ご自身の時間の全てを愛知学院大学、歯科界、そして国際社会のためにお使いになり、歯学部長の在任中に不治の病に罹られながらも、執務を止めず、最後まで愛知学院大学歯学部教授としてご尽力されました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和3年3月掲載）

歯学部 歯科矯正学講座 源千里先生の研究が 『2021 Wayne G. Watson Award for Biologic or Experimental Research』 を受賞

歯学部歯科矯正学講座の源 千里先生（非常勤講師）の学術論文『Alteration of tooth movement by reveromycin A in osteoprotegerin-deficient mice』がAmerican Journal of Orthodontics & Dentofacial Orthopedics (2020; 157: 680-689)に掲載され、その年の最も優秀な基礎研究に与えられる『2021 Wayne G. Watson Award for Biologic or Experimental Research』を受賞しました。

源先生はこれまで後藤滋巳 主任教授、宮澤 健 特殊診療科教授、田渕雅子 准教授の指導のもと、大学院時代からリペロマイシンAが歯の移動に及ぼす影響について研究を行ってきました。これは、歯科矯正学講座と理化学研究所（ケミカルバイオロジー研究グループ：ディレクター 長田裕之先生、和光市）との共同研究によるものであり、今後のさらなる活躍が期待されます。

- ・受賞：2021 Wayne G. Watson Award for Biologic or Experimental Research
- ・論文タイトル：Alteration of tooth movement by reveromycin A in osteoprotegerin-deficient mice



愛知学院大学ホームページ（令和3年7月掲載）

【楠元キャンパス】 新型コロナウイルス唾液無料PCR 検査を実施します

楠元キャンパス（歯学部、薬学部、短期大学部及び技工専門学校）では、文部科学省からの依頼により、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室が実施している、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大の早期探知

のための内閣官房モニタリング検査を行うこととなりました。

本検査は任意ではありませんが、医療に携わる学部として歯学部、薬学部、短期大学部及び技工専門学校の学生が検査を受けることで学生ご自身の健康のため、また学生同士の感染防止のための必要な措置として実施します。



愛知学院大学ホームページ（令和3年6月掲載）

大阪歯科大学 ■

「ひらかたの未来創造事業」 4大学の学生たちが枚方市長に プレゼンテーション

枚方市所在の4大学（大阪工業大、関西医科大、摂南大、本学）が連携している「枚方学術プラットフォーム」では、これまで枚方市の課題解決に向けた様々な事業を展開してきました。その中で、「若年層の投票率向上に向けて」をテーマに2019年10月から2020年8月まで複数回にわたり、主に本学楠元キャンパスを会場に、4大学の学生たちが集まり議論を重ねてきました。そして、2020年12月3日に枚方市役所で4大学の学生たちによるプレゼンテーションが行われました。

プレゼンテーションには、伏見隆・枚方市長をはじめ同市職員の方々と、4大学学生の代表6名（大阪工業大4名、関西医科大1名、本学1名）が出席。発表者の大阪工業大・情報科学部3年の朝野眞優子さん、植田涼介さんが「動画やSNSなどを利用し、若者向けにわかりやすく選挙や政治の情報を発信する」「学生が政治家のインタビューを行う」などの提案を行いました。

本学から参加の歯学部2年・犬伏陽菜さんは、政治家へのインタビューについて、「政治家の方々がたいへんむずかしい言葉で演説されているので、学生がインタビューすることによって、内容をわかりやすく伝えることができるのではないかと考えた」と提案の趣旨を説明

しました。

最後に、伏見市長は「若者の投票率を向上させるという選挙のあるべき姿を積極的に提案いただいた」と評価。運用レベルで配慮すべきことがあるとしたうえで、「深掘りすることで提案に沿った良い解決策が見つかると思う」との講評を述べられました。



枚方市役所での学生プレゼンテーションの一コマ



プレゼンを終え、伏見 枚方市長(左)と学生メンバーが
にこやかに記念撮影

右から2人目が、本学歯学部2年 犬伏陽菜さん

大阪歯科大学ホームページ（令和2年12月掲載）

歯学部4年の鈴田 真裕さんが SCRP日本大会で上位入賞しました

令和2年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会において、本学歯学部4年の鈴田真裕（まゆ）さんが基礎部門第2位に入賞し、12月7日、表彰楯授与式を楠葉キャンパスで行いました。

SCRPは、国際歯科研究学会米国部会・歯科医師会等が主催する、歯科学生によるグローバルな研究発表大会。日本大会は1995年度から始まり、全国の歯科大学・歯学部の学生が研究成果やプレゼンテーション能力を競います。

新型コロナウイルス感染症の影響で初のWeb開催となった今大会には、18校が参加。事前抄録・発表ビデオ・発表スライドによる一次審査、英語でのオンライン発表による二次審査を経て、10月5日に最終結果が発

表され、本学としては4年ぶり5回目の上位入賞となりました（優勝：北海道大6年生、準優勝：九州大5年生）。

鈴田さんの受賞研究テーマは「力学的閾値同定を主軸とした破骨細胞分化（促進／抑制）制御法の確立」。薬理学講座の納富拓也講師の指導の下、3年次の「研究チャレンジ」から少しづつ実験を行い、本学の学生研究助成金を受け研究を進めてきました。SCRP出場が決まった6月から本格的に実験に着手し、試験の合間や土日など限られた時間の中で研究をまとめあげました。そして、矛盾した結果が報告されていた破骨細胞分化と力学的刺激の関係について、「力学的閾値」を同定することで、その閾値を境にして正反対の分化反応（破骨細胞分化促進もしくは抑制）が生じることを明らかにして、その分化を制御することに成功しました。加えて、脳内記憶機構と類似して、破骨細胞が力学的刺激を記憶する機構「力学的刺激記憶機構」を有することを提唱しています。



SCRP基礎部門第2位の歯学部4年 鈴田 真裕さん(右)と
川添理事長・学長



表彰楯を手にした鈴田 真裕さん

大阪歯科大学ホームページ（令和3年12月掲載）

2020年度 グット・ティーチャー賞 の表彰が行われました

大阪歯科大学では、本学が定める三つのポリシーを十分に理解し、本学の教学マネジメント活動に積極的に関

与した教員のうち、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対してその功績を表彰するグッド・ティーチャー賞制度を設けています。

2021年4月1日、天満橋学舎にて2020年度グッド・ティーチャー賞の表彰を行いました。グッド・ティーチャーに選ばれた小正聰講師、津田進助教、三宅晃子助教が、川添理事長・学長から表彰状と副賞を贈られました。

受賞されました教員の皆様、誠におめでとうございます。

・グット・ティーチャー賞

歯学部低学年部門／化学教室 津田 進 助教

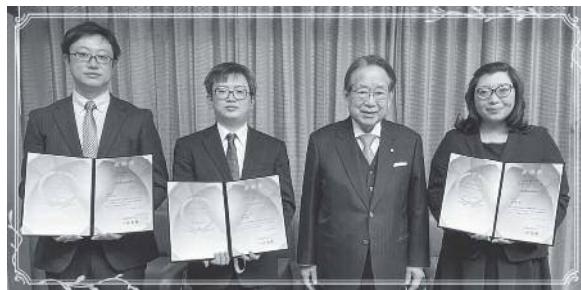
歯学部高学年部門／欠損歯列補綴咬合学部門

小正 聰 講師

医療保健学部部門／口腔工学科 三宅 晃子 助教

・選考基準

1. 卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践した者
2. 教育方法の工夫又は改善に取り組み、顕著な教育成果をあげた者
3. 能動的な学修への学生の主体的な参加を取り入れた教授法等により教育効果の高い授業を実践した者
4. 研究指導、課外活動指導その他の学生指導において顕著な成果を挙げた者
5. その他意欲的な情熱をもって教育活動に取り組み、顕著な教育成果をあげた者



学長室での表彰式の様子

左から、津田助教、小正講師、川添理事長・学長、三宅助教

大阪歯科大学ホームページ（令和3年4月掲載）

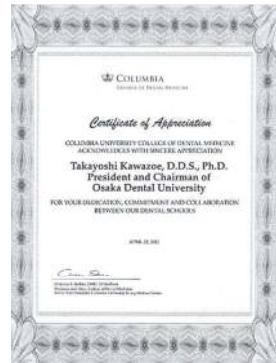
コロンビア大学から 川添理事長・学長に 感謝状が贈られました

このほど、本学の川添堯彬理事長・学長が米国コロンビア大学から感謝状を受けました（2021年4月22日付）。これは昨年末、同大学同窓会「1852 Society」に川添理事長・学長が本学を代表して行った寄付に対して

贈られたもので、感謝状授与は今回で2回目。

2004年の「学術交流に関する協定書」調印以来、本学は世界有数の名門校コロンビア大学とインプラント研修セミナーや、同大学歯学部長の講演会開催などを通じて交流を深めてきました。ここ10年ほどは「学生の国際交流力増強」に力を注ぐ川添理事長・学長の方針により、学生の訪問研修が活発化し、研修に参加した本学学生は66人を数え、また同大学からは17人の学生を受け入れています（2019年度時点）。

今や海外研修先として本学学生の一番人気を集めるコロンビア大学。新型コロナウイルスの世界的流行のため、2019・20年度の研修は中止を余儀なくされましたが、川添理事長・学長は「コロンビア大学へ行きたいという希望を多くの学生がもっており、われわれもそれを叶えてあげたい気持ちで一杯。事情が許せばできる限り早く再開したい」と話しています。



コロンビア大学からの感謝状を手に
川添理事長・学長（右）と、益野主任教授（国際交流部委員会委員）

大阪歯科大学ホームページ（令和3年5月掲載）

濱島 淑恵 教授が NHK「クローズアップ現代+」 に生出演しました

本学医療保健学部の濱島淑恵教授が5月13日、NHK総合テレビの『クローズアップ現代+』（22時00分～

30分)にリモートで生出演しました。特集テーマは「ヤングケアラー いま大人がすべきこと」。この中で、濱島先生は、国が4月に公表した全国調査により、あらためて顕在化したヤングケアラー(家族の介護を担う18歳未満の子ども)の問題について解説しました。

番組では、ヤングケアラー支援の先進地イギリスの取り組みを紹介。濱島先生はイギリスに学ぶ三つのポイントとして①法制化②支援メニューの充実③当事者の運動一を提示しました。

では、日本がヤングケアラーの問題に向き合っていくために今後何が必要か。これについて、濱島先生は「ヤングケアラーに関わる問題は子どもの人権に関わる事柄であり、子どもの問題ではあるが、それだけではない。その背後にある大人の問題に注意を払う必要がある。高齢者福祉、障がい者福祉、貧困、社会的孤立、社会的排除—こうしたさまざまな問題が絡んでおり、これらが解決されない中で、そのしわ寄せが子どもたちにしている。ヤングケアラーたちはさまざまな困難を抱えることがあるということです」と指摘したうえで、次のように述べました。「そういう意味で、ヤングケアラーの支援には児童福祉や教育というところだけでなく、さまざまな領域にまたがった包括的な支援が必要になってくる。その意味で、国には包括的な支援のビジョンを示していただきたいし、またそれを法制化し、予算化していくという取り組みを期待したい」と話しました。



※画像:NHK「クローズアップ現代」

番組出演中の濱島 淑恵・医療保健学部教授
大阪歯科大学ホームページ(令和3年5月掲載)

■福岡歯科大学■

福岡歯科大学長に高橋裕氏を再任

福岡歯科大学長の任期が令和3年1月31日で満了となることに伴い、令和2年12月15日開催の第556回理事会の議を経て、高橋 裕氏の再任を決定いたしました。任期は令和3年2月1日から令和6年1月31日までとなります。



高橋 裕 福岡歯科大学長

福岡学園広報誌 Vol.29 No.1 (第109号)
(令和3年2月発行)

福岡歯科大学が 災害時の歯科医療支援活動に関する 協定書を締結

令和2年11月20日、福岡歯科大学は、福岡県歯科医師会と災害時の歯科医療支援活動に関する協定書を締結しました。

この協定は、被災者の口腔ケアや亡くなられた方の身元確認といった災害時の歯科医療における支援内容を事前に決めておき、歯科医師などの人員を円滑に派遣するためのものです。

本学のほか、九州大学、九州歯科大学、福岡県歯科衛生士会、福岡県技工士会がそれぞれ協定を結び、県全体で災害時の迅速な対応を促進することとなりました。



福岡学園広報誌 Vol.29 No.1 (第109号)
(令和3年2月発行)

学校法人福岡学園・福岡歯科大学 創立50周年記念講堂 起工式を挙行

令和3年3月30日、学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念講堂建設工事に先立ち、起工式が執り行われ、水田理事長、田口常務理事、高橋福岡歯科大

学長をはじめとする本学園関係者ならびに設計および施工関係者が参列し、これから始まる工事の安全を祈念いたしました。この講堂は、令和4年に学校法人福岡学園・福岡歯科大学が創立50周年を迎える記念事業の一環として、旧病院跡地に建設されます。約550人収容の大ホールと共に、大小のセミナー室を配置し、1階にはフードコートも設置され、令和4年6月の完成を目指し、工事が進められます。



起工式の様子



病院と記念講堂イメージ図

福岡学園広報誌 Vol.29 No.2 (第110号)
(令和3年5月発行)

「学術研究振興資金」に 福岡歯科大学日高教授が採択

日本私立学校振興・共済事業団による令和3年度学術研究振興資金の選考結果が発表され、福岡歯科大学の日高真純教授（分子機能制御学分野）の研究課題「DNA損傷に応答して細胞死を選択する制御機構の解明」が採択されました。本資金は、私立の大学、短期大学、高等専門学校における社会的要請の強い学術研究に交付されます。各学校からの応募は1課題のみに限定されており、令和3年度は新規応募件数108件のうち、採択は17件のみ（採択率15.7%）と難関の研究助成です。

本研究は、がん細胞優先的な細胞死誘導を目指した基礎研究であり、口腔扁平上皮がんの新たな治療法につながる独創的な研究テーマである点が評価され、採択となりました。



日高真純 教授

福岡学園広報誌 Vol.29 No.2 (第110号)
(令和3年5月発行)

事業概要

令和2年度協会決算

令和3年度協会決算は、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録とともに監事の監査を経

て、令和3年6月17日の第92回定時総会に提出され、審議の結果、原案どおり承認された。

令和2年度収支計算書総括表

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

科 目	金額
I 事業活動収支の部	円
1. 事業活動収入	
① 基本財産運用収入	4,245
② 会費収入	47,800,000
③ 事業収入	0
④ 負担金収入	5,100,000
⑤ 雜収入	0
事業活動収入計	52,904,245
2. 事業活動支出	
① 事業費支出	43,646,449
② 管理費支出	10,991,794
事業活動支出計	54,638,243
事業活動収支差額	△ 1,733,998

科 目	金額
II 投資活動収支の部	円
1. 投資活動収入	
特定資産取崩収入	11,943,926
投資活動収入計	11,943,926
2. 投資活動支出	
特定資産取得支出	10,936,648
投資活動支出計	10,936,648
投資活動収支差額	1,007,278
III 予備費支出	0
当期収支差額	△ 726,720
前期繰越収支差額	22,518,365
次期繰越収支差額	21,791,645

令和3年度 日本私立歯科大学協会事業計画

一般社団法人日本私立歯科大学協会は、我が国の歯学教育及び歯学研究の機関としての私立歯科大学並びに私立大学歯学部を設置する私立大学（以下「私立歯科大学」という。）の重要性に鑑み、私立歯科大学の教育、研究及び経営等に関する調査研究並びに会員相互の提携と協力によって、私立歯科大学の振興を図るとともに我が国の歯学及び歯学教育の充実、発展を期し、もって国民の健康な生活の確保に貢献することを目的に諸事業を実施してきているところである。

近年、18歳人口の減少、超高齢社会の到来、地域包括ケアシステムの構築、歯科疾病構造の変化、歯科医学の進歩などを背景として歯学教育を取り巻く環境の変化に的確な対応が求められている。とりわけ、我が国の歯科医師の75%を養成してきている私立歯科大学に対する社会の期待は大きく、その使命はますます重くなっている。

そこで、本年度は、定款第4条に定める各事業のうち、下記の事業を実施する。

記

I 事業の内容

1. 新型コロナウイルス感染症の教育・研究及び附属病院の経営等への影響の調査

新型コロナウイルス感染症拡大による、教育・研究及び附属病院の経営等への影響について、適宜調査を実施し、情報共有するとともに、必要に応じ、国等へ対応策の策定や財政的支援について要請する。

2. 私立歯科大学における教育・研究に関する調査研究

我が国の歯学教育の在り方について基本的な方向性を調査研究するとともに、共用試験・歯科医師国家試験の在り方について調査研究する。一方、文部科学省から委

託を受けて日本歯科医学教育学会が実施する歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂及び厚生労働省における歯科医療供給体制に関する検討会の検討状況等を踏まえ、それらが、私立歯科大学の状況を反映したものとなるよう適切に対応するため、必要な検討・協議等を行う。

3. 私立歯科大学における管理運営及び経営、特に財政基盤に関する調査研究

私立歯科大学の財政状況は、学生納付金収入の減、私大経常費補助金の相対的減、附属病院収入の減、歯科医師臨床研修の補助金の減額などにより、益々運営が厳しくなっている。

また、私立歯科大学附属病院においては、恒常に赤字経営となっていることに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による診察控え並びに感染対策としての休診及び受診者数の調整等に伴い、大幅に収入が減少し、収支のアンバランスが大きな問題となっている。新型コロナウイルス感染症による収入減への対応及び補助金の使用制限が各大学病院での経営を圧迫している歯科医師臨床研修補助金について、抜本的な経済的支援体制の策定を国に求める必要がある。

このため引き続き、私立歯科大学の経営の在り方（「私立歯科大学（学部）の財政等の現状（令和元年版）」を作成し分析することを含む。）等について検討・協議等を行う。

4. 私立歯科大学の職員の研修

加盟大学の職員の理解を深めるため、教務及び事務上の課題・問題点、対応方法等についての研修会を企画・実施する。なお、研修会の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、オンライン方式による開催も検討する。

5. 会報の刊行

加盟大学のニュースや協会の事業等を掲載した会報の刊行を2回（第82号（令和3年9月発行）及び第83号（令和4年3月発行））行い、加盟大学や文部科学省等の関係機関に配布する。

6. 受験生確保対策事業及び広報戦略事業

(1) 受験生確保対策事業

多数の優秀な受験生を確保するため、高校生や受験生、進路指導担当教員等の関心を歯科医学・医療並びに私立歯科大学に向けさせるための方策を企画・実施するとともに、私立歯科大学受験志望者への入試関係情報の提供等を実施する。

(2) 広報戦略事業

国民や関係方面の歯科医学教育等に関する理解を深め

るとともに、私立歯科大学が果たしてきている社会的役割を積極的に発信するため、広報戦略事業（歯科プレスセミナーの開催等）を企画・実施する。なお、歯科プレスセミナーについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、引き続き、オンライン方式による開催も検討する。

7. 私学関係諸団体との提携、協力及び援助

次の諸団体に、本協会傘下の会議として後援を行う。

- (1) 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会
- (2) 全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会
- (3) 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会
- (4) 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会
- (5) 全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会

II 各部会、委員会における検討・協議等

1. 教育・研究部会

病院部会及び経営部会と連携を図りながら、特に、歯学教育の改善・充実、歯科医師需給問題、歯科医師国家試験問題等の教育・研究に関する事柄について検討・協議等を行う。

2. 病院部会

教育・研究部会及び経営部会と連携を図りながら、特に、歯科医師臨床研修問題、附属病院の医療安全、医療事故調査制度等の附属病院の運営に関する事柄について検討・協議等を行う。

3. 経営部会

教育・研究部会及び病院部会と連携を図りながら、特に、経営問題等に関する事柄について検討・協議等を行う。

4. 広報委員会

協会広報の将来のあり方を検討しつつ、会報について企画・刊行を行う。

5. 受験生確保対策委員会

受験生確保対策事業について企画・実施する。

6. 研修委員会

教務研修会及び附属病院管理運営事務研修会について企画・実施する。

7. 歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

歯科医師臨床研修の在り方について検討・協議等を行う。

8. 診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

診療参加型臨床実習の在り方について検討・協議等を行う。

私立歯科大学の発展・充実を図るために必要な、共通かつ基本的な諸問題が生じ、基本方策の樹立あるいは各大学の協調が求められる場合、必要に応じて、これらを開催して意見を聞く。

9. 附属病院感染対策協議会

附属病院の感染対策の充実について検討・協議等を行う。その際、必要に応じ、国公立大学附属病院感染対策協議会等との情報交換を行う。

(2) 事務局長会議

管理運営に関する意見・情報の交換、各大学間の連絡・調整を図る。

また、理事会への提案案件を事務的に検討するとともに、各大学から提案される案件についても検討・協議する。

10. 私立大学歯学部学生生活協議会

私立歯科大学の学生生活上の諸課題等について情報交換・協議等を行う。

12. 各部会、委員会等の開催方法

上記の各部会、委員会等については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、オンライン方式による開催も検討する。

11. 連絡会議

(1) 理事長会議及び学長会議

令和3年度協会収支予算**令和3年度収支予算書**

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	1,000	5,000	△ 4,000	
② 会費収入	47,800,000	47,800,000	0	
③ 事業収入	1,360,000	1,360,000	0	
④ 負担金収入	5,100,000	5,100,000	0	
⑤ 雑収入	1,600,000	1,600,000	0	
事業活動収入計	55,861,000	55,865,000	△ 4,000	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	47,780,000	51,080,000	△ 3,300,000	
② 管理費支出	15,130,000	15,130,000	0	
事業活動支出計	62,910,000	66,210,000	△ 3,300,000	
事業活動収支差額	△ 7,049,000	△ 10,345,000	3,296,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	10,280,000	10,280,000	0	
投資活動収入計	10,280,000	10,280,000	0	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	11,300,000	11,300,000	0	
投資活動支出計	11,300,000	11,300,000	0	
投資活動収支差額	△ 1,020,000	△ 1,020,000	0	
III 予備費支出				
当期取支差額	△ 8,669,000	△ 11,965,000	3,296,000	
前期繰越取支差額	19,660,000	14,200,000	5,460,000	
次期繰越取支差額	10,991,000	2,235,000	8,756,000	

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	三浦廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
副会長	大友克之	朝日大学学長
副会長	本田和也	日本大学副学長・歯学部長
副会長	藤井一維	日本歯科大学学長
専務理事	羽村章	日本歯科大学生命歯学部教授
常務理事	櫻井孝	神奈川歯科大学学長
常務理事	高橋裕	福岡歯科大学学長
常務理事	一戸達也	東京歯科大学副学長
常務理事	横宏太郎	昭和大学歯学部長
理事	大野敬	奥羽大学歯学部長
理事	川添堯彬	大阪歯科大学理事長・学長・歯学部長
理事	大久保力廣	鶴見大学歯学部長
理事	古市保志	北海道医療大学歯学部長
理事	宮田淳	明海大学理事長
理事	小方頼昌	日本大学松戸歯学部長
理事	矢ヶ崎雅	松本歯科大学理事長
理事	後藤滋巳	愛知学院大学歯学部長
監事	牧村正治	日本大学名誉教授
監事	菱田健治	朝日大学監事

(R3.8.31現在)

教育・研究部会

部会長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
瀬川洋	奥羽大学歯学部学生部長
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
橋本正次	東京歯科大学副学長
楳宏太郎	昭和大学歯学部長
今村佳樹	日本大学歯学部学務担当
小見山道	日本大学松戸歯学部学務担当
沼部幸博	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一維	日本歯科大学学長
楢木恵一	神奈川歯科大学副学長
早川徹	鶴見大学副学長・歯学部教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
田村康夫	朝日大学副学長・歯学部長
後藤滋巳	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・教務部長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R3.8.31現在)

病院部会

部会長：楳宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
川上智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤和朗	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
杉田俊博	奥羽大学歯学部附属病院長
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
片倉朗	東京歯科大学水道橋病院長
馬場一美	昭和大学歯科病院長
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
河相安彦	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
山口晃	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
五味一博	鶴見大学歯学部附属病院長
矢島安朝	松本歯科大学病院アドバイザー
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
長尾徹	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学附属病院長
阿南壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R3.8.31現在)

経営部会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
鈴木英二	北海道医療大学副理事長
高橋真	岩手医科大学事務局長
齋藤高弘	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
若井祐次	東京歯科大学法人事務局内部監査室長
倉口秀美	昭和大学学事部長
石崎和文	日本大学歯学部事務局長
沼子博	日本大学松戸歯学部事務局長
谷村龍三	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聰	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
下村錢三郎	大阪歯科大学常務理事
井手孝行	福岡歯科大学事務局長

(R3.8.31現在)

広報委員会

委員長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
近藤 敬	岩手医科大学歯学部教務課長
佐藤和義	奥羽大学事務長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彦	日本大学歯学部庶務課長
田中哲弘	日本大学松戸歯学部庶務課長
田口潤	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本宮由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
櫻井一義	神奈川歯科大学総務部総務課長
平野司	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
繩纈力	朝日大学入試広報部入試広報課長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R3.8.31現在)

研修委員会

委員長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
近藤 敬	岩手医科大学歯学部教務課長
佐藤和義	奥羽大学事務長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
若井祐次	東京歯科大学法人事務局内部監査室長
大矢敦	昭和大学人事課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
田中哲弘	日本大学松戸歯学部庶務課長
高橋孝幸	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
児玉孝	大阪歯科大学法人事務局長
川野庸一	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R3.8.31現在)

受験生確保対策委員会

委員長：本田 和也
日本私立歯科大学協会副会長
日本大学副学長・歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
佐々木光章	岩手医科大学学務部次長
渡邊克己	奥羽大学歯学部教務課長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
中村武彦	昭和大学入学支援課長
横田正	日本大学歯学部教務課長
中澤謙司	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部係長
菅谷彰	神奈川歯科大学副学長・教学部学生担当部長
西村勇気	鶴見大学入試センター事務長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
香田肇	朝日大学歯学部事務課長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・教務部長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R3.8.31現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学副学長

氏名	大学名・役職名
川上智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森徹雄	奥羽大学歯学部教授
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
平田創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
船津敬弘	昭和大学歯学部教授
武市収	日本大学歯学部卒後教育担当
平山聰司	日本大学松戸歯学部卒後教育担当
小川智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任部会長
二宮一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋桂	神奈川歯科大学附属病院総医長・研修管理委員長
山口博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
荒木章純	愛知学院大学歯学部教授
百田義弘	大阪歯科大学学生部長
阿南壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R3.8.31現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学副学長

氏名	大学名・役職名
長澤敏行	北海道医療大学歯学部教授
三浦廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
高田訓	奥羽大学歯学部教授
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
一戸達也	東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長
長谷川篤司	昭和大学歯学部教授
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
小宮正道	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
五十嵐勝	日本歯科大学生命歯学部教務部長
海老原隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
星憲幸	神奈川歯科大学附属病院副病院長・教育企画部教授
友成博	鶴見大学歯学部教授
亀山敦史	松本歯科大学病院副歯科病院長
石神元	朝日大学歯学部臨床実習センター長
長谷川義明	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本一世	大阪歯科大学附属病院副病院長
阿南壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R3.8.31現在)

附属病院感染対策協議会

議長：横宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
永易裕樹	北海道医療大学病院歯科口腔外科医長
八重柏隆	岩手医科大学歯学部教授
板橋仁	奥羽大学歯学部准教授
星野倫範	明海大学歯学部医療安全執行部長
高野正行	東京歯科大学水道橋病院副病院長
代田達夫	昭和大学歯学部教授
米原啓之	日本大学歯学部学部次長
山口秀紀	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
石垣佳希	日本歯科大学生命歯学部院内感染予防対策委員長
水谷太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部院内感染防止対策委員長
沢井奈津子	神奈川歯科大学教育企画部准教授
五味一博	鶴見大学歯学部附属病院長
栗原祐史	松本歯科大学教授
安田順一	朝日大学歯学部准教授
宮地齊	愛知学院大学歯学部准教授
松本和浩	大阪歯科大学講師
橋本憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R3.8.31現在)

賛助会員企業

紹介コナード



石福金属興業株式会社

石福金属興業は、貴金属製品の開発から製造、販売及び回収・精製までを一貫して行う貴金属の総合メーカーです。1930年の創業以来他の素材にはない優れた貴金属の特性を医療、工業、宝飾分野に活かし、1万点以上の製品開発をしてまいりました。

歯科医療分野でも早くから貴金属の優位性に着目し1948年に製造販売を開始しました。ロンドン市場の厳しい認定基準を満たした貴金属地金を原材料に使用し、現在では保険適用材料から自由診療製品まで、高品質で高性能な商品を幅広く取り揃えています。また、患者様をはじめ歯科医療の関係者の皆様に安心して使用していただけるように国際レベルに対応した品質保証体制を確立しております。

今後も当社にしか実現できない技術や製品を生み出し、いつの時代にも必要とされる会社でありたいと考えております。

事業内容

1. 歯科用各種貴金属製品の製造販売
2. 貴金属の地金売買及び回収・精製
3. 工業用の板、線、パイプ、各種ろう材の製造販売
4. 貴金属ターベット製造販売
5. 装飾用の板、線、パイプ、バーツの製造販売
6. 熱電対及び貴金属理化学用品の製造販売
7. 貵金属化合物、粉末、ペーストの製造販売
8. 燃料電池触媒関連製品の製造販売
9. 不溶性電極の製造販売

所在地
〒 101-0047
東京都千代田区内神田 3-20-7
TEL 03-3252-8471 (歯科材営業部
直通)
FAX 03-3252-8475
[https://www.ishifuku.co.jp](http://www.ishifuku.co.jp)



代表取締役社長 執行役員
古宮 基成

サンメディカル株式会社

サンメディカルは、まだ歯科治療が金属等の嵌合（はめ込み）を中心としていた時代に歯科材料の接着材に着目し、その研究・生産・販売を目的として三井石油化学工業株式会社（現 三井化学株式会社）と株式会社ニッシンとの合弁により1981年2月に創立されました。おかげさまで、本年2月で40周年を迎えさせていただきました。

1982年にはレジン系歯科用接着材料「スーパーボンド®」を発売し、現在もレジンセメント分野では国内トップシェアを誇っております。「スーパーボンド®」は湿潤条件でも優れた接着性能をもつ点が特徴で、その長期の臨床実績に裏付けられたお客様からの信頼の厚い当社の主力製品です。

これからも「スーパーボンド®」で培った技術を生かした接着充填材や根管充填材をはじめ、知覚過敏抑制材や支台築造材料など歯科材料の理想をもとめてお客様に役立つ製品を提供し、歯科医療技術の進歩と口腔衛生の向上に貢献して参ります。

事業内容

- 歯科材料その他医療用具の製造、販売及び輸出入。

所在地
〒 524-0044
滋賀県守山市古高町 571-2
TEL 077-582-9981 (代表)
FAX 077-582-9979
<http://www.sunmedical.co.jp>



代表取締役社長
稻垣 隆之

一般社団法人

日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
岩手医科大学歯学部
奥羽大学歯学部
明海大学歯学部
東京歯科大学
昭和大学歯学部
日本大学歯学部
日本大学松戸歯学部
日本歯科大学生命歯学部
日本歯科大学新潟生命歯学部
神奈川歯科大学
鶴見大学歯学部
松本歯科大学
朝日大学歯学部
愛知学院大学歯学部
大阪歯科大学
福岡歯科大学

■賛助会員■

(株)シラネ	沖歯科要材(株)
(株)ヨシダ	(株)J.M.O r t h o
デンツプライシロナ(株)	(株)トクヤマデンタル
長田電機工業(株)	(株)ミクロン
(株)東京技研	(株)モリタ東京製作所
(株)ジ一シ一	(株)Y D M
吉田精工(株)	サンメディカル(株)
(株)八堯	(株)田中歯科器械店
ササキ(株)	医歯薬出版(株)
(株)モリタ	(株)ブイ・エス・シー
(株)ニッシン	日本治水(株)
(株)松風	(株)E P A R K
(株)モリタ製作所	メデイア(株)
日本歯科薬品(株)	
(株)玉井歯科商店	
(株)ADI.G	
石福金属興業(株)	

◇編集後記◇

協会広報第82号をお届けします。

今号の巻頭言は、愛知学院大学の後藤滋巳歯学部長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願ひいたします。

広報委員長（協会常務理事）

高橋 裕

令和3年9月30日発行

日本私立歯科大学協会広報 第82号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 三浦 廣行

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株)日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化(初代専務理事 宮田侑先生による)